

# 仙台市若者のまちづくり活動に関する意識調査 報告書

---

令和 5 年 3 月

仙台市市民局市民協働推進課

# 目次

---

<b>調査の概要</b> .....	4
(1) アンケート調査.....	4
(2) ワークショップ.....	4
(3) 関係団体ヒアリング .....	4
<b>「まちづくり活動」の定義</b> .....	5
<b>アンケート調査</b> .....	6
アンケート調査の概要 .....	6
年齢 / 職業 .....	6
調査を知ったきっかけ .....	8
まちづくり活動への興味・関心と活動経験 .....	10
関心のある分野 .....	11
まちづくり活動への参加に期待すること .....	14
まちづくり活動に参加したきっかけ .....	17
まちづくり活動への参加形態 .....	17
まちづくり活動者の知人.....	18
まちづくり活動に参加することへの不安、参加の妨げ .....	19

まちづくり活動に参加する若者が増えるために重要なこと .....	24
仙台市役所の取り組み等を知る手段 .....	28
その他自由記述 .....	32
<b>ワークショップ</b> .....	34
ワークショップの概要 .....	34
参加者の属性.....	34
ワークショップの流れ .....	35
各グループが創作した物語 .....	36
ワークショップのまとめ.....	42
<b>関係団体ヒアリング</b> .....	45
関係団体ヒアリングの概要.....	45
まちづくり活動への参加に期待すること .....	46
まちづくり活動に参加することへの不安、参加の妨げ .....	47
まちづくり活動に参加する若者が増えるために重要なこと .....	48
<b>総括</b> .....	49
(1) 楽しさ × つながり × 成長 × 貢献 .....	50
(2) わからない不安の払拭.....	50
(3) 情報の届け方 .....	51

<b>付録</b> .....	52
アンケート調査票.....	52
ワークショップスライド.....	59
ワークショップの様子 .....	62
ワークショップ参加者アンケート .....	63

## 調査の概要

---

本市では、「若者が活躍するまち」の実現を目指し、若者のさまざまなチャレンジを応援し、若い力を生かしたまちづくりを進めている。この取り組みをさらに推し進めていくために、若い世代の方々のまちづくり活動に対する意識やご意見をお伺いする以下の3つの調査を実施した。

### (1) アンケート調査

みやぎ電子申請サービスを用いて、Webアンケートを行った。

### (2) ワークショップ

青葉の風テラス（地下鉄東西線国際センター駅2階）にて、まちづくり活動に関するグループディスカッションを行った。

### (3) 関係団体ヒアリング

多くの若者と共に活動している団体に、アンケート調査を踏まえてヒアリングを行った。

なお、本調査は、18歳から39歳の方<sup>※</sup>で、仙台市内にお住まいの方または通勤・通学している方を対象としている。

※ 市民協働推進課の「若者が活躍するまちづくり事業（若者活躍事業）」の対象者の範囲を基に設定

本調査は、アンケートご回答者の皆様、ワークショップにご参加の皆様、外国人のこども・サポートの会様、一般社団法人 ONE TOHOKU HUB 様、東北大学大学院経済学研究科准教授 高浦康有様、仙台市協働まちづくり推進委員会委員の皆様、仙台市市民活動サポートセンタースタッフの皆様、調査の周知・広報等にお力添えくださった皆様など、様々な方々のご協力により行うことができました。誠にありがとうございました。

## 「まちづくり活動」の定義

本調査における「まちづくり活動」とは、若い世代の方々が、社会や地域をよりよくするために、社会・地域が抱える課題の解決や、まちの魅力向上・地域の幸福度向上等に取り組む活動を指すこととした。

<まちづくり活動の例>



子ども食堂やフリースクールなどのボランティア



地域イベント運営



介護予防支援活動



障害者支援活動



国際交流活動



保護猫活動



LGBTQ支援活動



SDGs勉強会に参加



農業支援活動



地域清掃活動



地域安全パトロール



伝統芸能の継承



施設への慰問活動



コミュニティカフェや  
交流イベントの運営・参加



SNSで地域の魅力などを  
発信

他にも…

リサイクルや消費者教育などの啓発活動、商店街活性化イベントの企画運営、地域の交通安全活動、スポーツ少年団での指導、高齢者向けICT支援ボランティア、アートを通じた社会課題発信や交流を創るイベントの企画運営、フードバンク活動、職場でのCSR活動、歴史資産や伝統文化を活かした賑わいづくり、震災の教訓を活かした防災・減災活動等

# アンケート調査

## アンケート調査の概要

調査期間： 令和4年8月1日（月曜日）から31日（水曜日）まで

回答方法： みやぎ電子申請サービスを用いたWebアンケート

回答数： 1,092人

周知方法： 住民基本台帳から無作為抽出した3,000人に案内を送付したほか、市ホームページやチラシ等で広く周知するとともに、大学や市民活動団体等に周知協力を依頼した。

設問項目： 巻末付録P. 52 参照

その他： 一部の設問については、本市で実施している「若者が活躍するまちづくり事業<sup>※</sup>」の参加者に追加でアンケートを行った。

（ **PLUS** > 若者活躍事業参加者の声 > ）として記載）

※ 「仙台まちづくり若者ラボ」及び「ユースチャレンジ！コラボプロジェクト（若者版市民協働事業提案制度）」

表中の「割合」については、小数点第二位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。

## 年齢 / 職業

〔質問1〕 あなたの年齢をお答えください。

選択肢	回答数	割合
18～19歳	122	11.2%
20～24歳	252	23.1%
25～29歳	190	17.4%
30～34歳	241	22.1%
35～39歳	287	26.3%

〔質問2〕あなたのご職業をお答えください。

選択肢	回答数	割合
学生	322	29.5%
勤め人（常勤）	533	48.8%
勤め人（パート・アルバイトなど）	85	7.8%
会社・団体などの役員	35	3.2%
自営業者（家族従業の方を含む）	29	2.7%
家事専業	54	4.9%
無職	32	2.9%
その他	2	0.2%

【回答者の職業と年齢】

職業	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	計
学生	117	187	14	3	1	322
勤め人（常勤）	4	48	140	168	173	533
勤め人（パート・アルバイトなど）	1	6	16	25	37	85
会社・団体などの役員	0	1	7	13	14	35
自営業者（家族従業の方を含む）	0	1	2	8	18	29
家事専業	0	1	4	16	33	54
無職	0	8	6	8	10	32
その他	0	0	1	0	1	2
計	122	252	190	241	287	1,092



## 調査を知ったきっかけ

〔質問3〕 この調査を知ったきっかけを教えてください。

選択肢	回答数	割合
市役所からの郵便物	530	48.5%
インターネット・SNS	298	27.3%
チラシ	12	1.1%
その他	244	22.3%

※無回答 8件

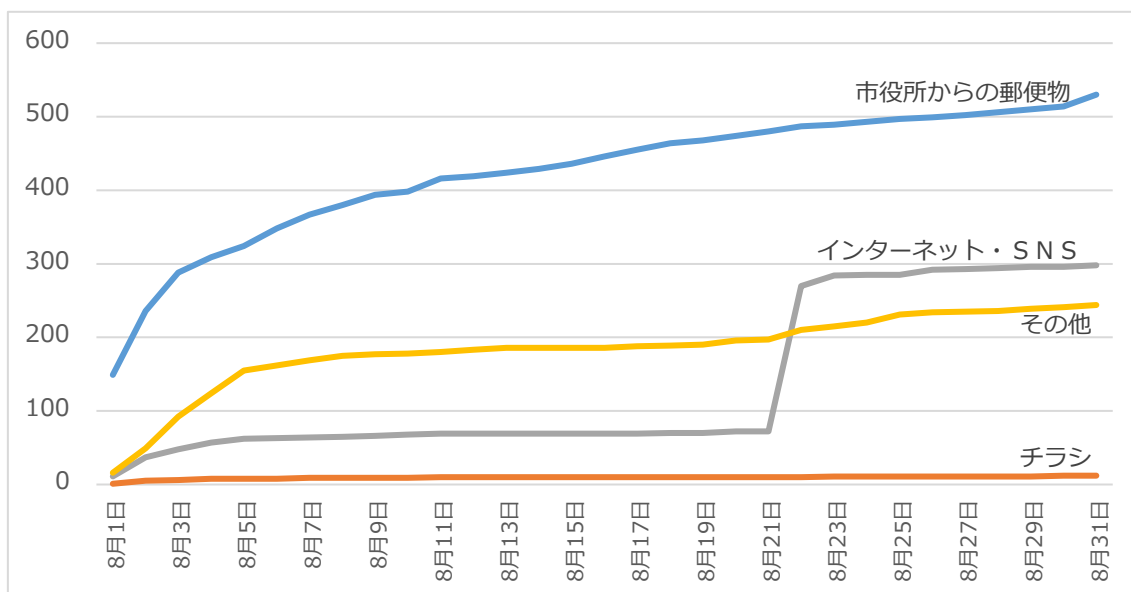
【「市役所からの郵便物」を選択した方の年代別回答率】

	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	計
郵送数	222	647	665	697	769	3,000
回答数	34	79	116	141	160	530
回答率	15.3%	12.2%	17.4%	20.2%	20.8%	17.7%

「市役所からの郵便物」という選択肢は、3,000人に郵送した案内文を想定したもの。住民基本台帳から無作為抽出して案内を郵送した3,000人のうち、回答があったのは530人で、回答率は17.7%であった。30代の回答率が高くなっている。

※ 年代別の郵送数については、各年代の住民基本台帳人口に占める割合を元に按分している。

## 【日別回答件数累計】



〔市役所からの郵便物〕 案内文が投函された8月1日から最終日まで回答が伸び続けた。

〔インターネット・SNS〕 市や市民活動サポートセンター等のホームページ、Twitter等で周知したほか、8月22日に仙台市公式LINEアカウントからメッセージ配信を行った。

〔チ ラ シ〕 市民センター等、各所にチラシの配架を依頼した。

〔そ の 他〕 大学や関係機関、過去のイベント参加者等に周知協力を依頼した。

## 【調査を知ったきっかけ（職業別）】

職業	市役所からの郵便物	インターネット・SNS	チラシ	その他
学生	75	46	6	191
勤め人（常勤）	334	159	6	31
勤め人（パート・アルバイトなど）	46	35	0	4
会社・団体などの役員	18	8	0	8
自営業者（家族従業の方を含む）	17	6	0	6
家事専業	18	33	0	3
無職	21	10	0	1
その他	1	1	0	0
計	530	298	12	244

## まちづくり活動への興味・関心と活動経験

〔質問4〕まちづくり活動への参加に対して、興味・関心はありますか。

〔質問7〕「まちづくり活動」に参加した経験がありますか。

活動経験	興味・関心 がある	特に興味・関心 はない	計
経験がある（現在も参加中）	121 (11.1%)	7 (0.6%)	128 (11.7%)
経験がある（過去に参加していた）	109 (10.0%)	24 (2.2%)	133 (12.2%)
ない	614 (56.2%)	217 (19.9%)	831 (76.1%)
計	844 (77.3%)	248 (22.7%)	1,092 (100.0%)

77.3%の方（n=844）がまちづくり活動に「関心がある」と回答しているが、そのうち活動に参加した経験が「ない」と回答した方（n=614）は72.7%であり、関心があってもまだ活動にまで至っていない若者が多いことが分かった。

この報告書では、興味・関心と活動経験によって、以下の5つのセグメントに分類し、一部設問においてセグメント毎の回答の分析も行った。

	まちづくり活動に 興味・関心がある	まちづくり活動に 興味・関心がない
活動経験がある （現在も参加中）	<b>活動層</b> (n=121)	<b>潜在層 〔経験あり〕</b> (n=31)
活動経験がある （過去に参加していた）	<b>経験層</b> (n=109)	
活動経験がない	<b>関心層</b> (n=614)	<b>潜在層 〔経験なし〕</b> (n=217)

## 関心のある分野

(質問4で「興味・関心がある」と答えた方のみ回答)

〔質問5〕 どのような分野のまちづくり活動に興味・関心がありますか。

(複数選択可)

選択肢	回答数	割合
① 地域活性化・まちおこし	473	56.0%
② 学術・文化・芸術・スポーツ	395	46.8%
③ 保健・医療・福祉	377	44.7%
④ 子ども・青少年育成	366	43.4%
⑤ 観光	363	43.0%
⑥ 地域安全・防災	261	30.9%
⑦ 自然・環境保全	254	30.1%
⑧ 経済活性化	254	30.1%
⑨ 社会教育	234	27.7%
⑩ 災害救援	195	23.1%
⑪ 情報化・科学技術	153	18.1%
⑫ 職業能力開発・雇用機会拡充	152	18.0%
⑬ 国際協力・交流	125	14.8%
⑭ 男女共同参画	115	13.6%
⑮ 人権・平和	103	12.2%
⑯ 消費者保護	75	8.9%
⑰ その他	19	2.3%

「その他」の自由記述の例：同性パートナーシップ、動物愛護、交通、食等

## 【関心のある分野（年代別）】

選択肢	18～19歳 (n=96)	20～24歳 (n=192)	25～29歳 (n=148)	30～34歳 (n=185)	35～39歳 (n=223)
① 地域活性化・まちおこし	55.2%	56.3%	56.1%	54.1%	57.8%
② 学術・文化・芸術・スポーツ	55.2%	53.6%	48.0%	45.9%	37.2%
③ 保健・医療・福祉	40.6%	38.0%	40.5%	46.5%	53.4%
④ 子ども・青少年育成	36.5%	31.3%	30.4%	51.9%	58.3%
⑤ 観光	42.7%	46.4%	46.6%	43.2%	37.7%
⑥ 地域安全・防災	29.2%	29.7%	22.3%	29.2%	39.9%
⑦ 自然・環境保全	29.2%	37.5%	24.3%	27.0%	30.5%
⑧ 経済活性化	25.0%	23.4%	32.4%	34.1%	33.2%
⑨ 社会教育	19.8%	28.6%	23.0%	25.9%	35.0%
⑩ 災害救援	25.0%	24.0%	18.2%	20.0%	27.4%
⑪ 情報化・科学技術	14.6%	18.2%	19.6%	16.8%	19.7%
⑫ 職業能力開発・雇用機会拡充	15.6%	14.1%	16.9%	21.6%	20.2%
⑬ 国際協力・交流	16.7%	14.6%	18.9%	12.4%	13.5%
⑭ 男女共同参画	15.6%	17.2%	14.9%	13.5%	9.0%
⑮ 人権・平和	9.4%	12.0%	15.5%	9.7%	13.5%
⑯ 消費者保護	9.4%	9.4%	8.1%	10.3%	7.6%
⑰ その他	2.1%	2.1%	0.0%	3.8%	2.7%

「① 地域活性化・まちおこし」は、どの年齢層でも関心が高い。

24歳以下では、「② 学術・文化・芸術・スポーツ」の関心が高く、一方で、子育て中の方が多くなる30歳以上では、「④ 子ども・青少年育成」の関心が高い等、その年代の方にとって身近な分野に関心が高い傾向がある。

【関心のある分野（セグメント毎）】

選択肢	活動層	経験層	関心層
	(n=121)	(n=109)	(n=614)
① 地域活性化・まちおこし	77.7%	59.6%	51.1%
② 学術・文化・芸術・スポーツ	43.8%	53.2%	46.3%
③ 保健・医療・福祉	37.2%	33.9%	48.0%
④ 子ども・青少年育成	52.9%	37.6%	42.5%
⑤ 観光	43.8%	43.1%	42.8%
⑥ 地域安全・防災	38.8%	33.9%	28.8%
⑦ 自然・環境保全	31.4%	30.3%	29.8%
⑧ 経済活性化	26.4%	20.2%	32.6%
⑨ 社会教育	42.1%	22.9%	25.7%
⑩ 災害救援	23.1%	24.8%	22.8%
⑪ 情報化・科学技術	17.4%	12.8%	19.2%
⑫ 職業能力開発・雇用機会拡充	21.5%	17.4%	17.4%
⑬ 国際協力・交流	19.8%	17.4%	13.4%
⑭ 男女共同参画	21.5%	15.6%	11.7%
⑮ 人権・平和	14.0%	12.8%	11.7%
⑯ 消費者保護	5.8%	9.2%	9.4%
⑰ その他	4.1%	6.4%	1.1%

どのセグメントにおいても、「① 地域活性化・まちおこし」が最も関心が高い。

活動層においては、「① 地域活性化・まちおこし」、「④ 子ども・青少年育成」、「⑨ 社会教育」の分野が他のセグメントよりも大幅に高く、「⑥ 地域安全・防災」、「⑭ 男女共同参画」もやや高い。

関心層においては、「③ 保健・医療・福祉」、「⑧ 経済活性化」の分野が他のセグメントよりもやや高い。

## まちづくり活動への参加に期待すること

(質問4で「興味・関心がある」と答えた方のみ回答)

〔質問6〕

あなたがまちづくり活動に参加する場合に、期待することは何ですか。

(複数選択可)

選択肢	回答数	割合
① 身近な地域の役に立てる	452	53.6%
② 社会に貢献できる	449	53.2%
③ 人とのつながりを増やせる	427	50.6%
④ 困っている人や誰かの力になれる	410	48.6%
⑤ 自分の成長やキャリアアップにつながる	361	42.8%
⑥ 楽しい時間を過ごせる	290	34.4%
⑦ 自分の知識やスキルが活かせる	279	33.1%
⑧ やりたいことが見つかる	202	23.9%
⑨ 余暇時間を有意義に使える	168	19.9%
⑩ 特別な知識やスキルなしでも参加できる	163	19.3%
⑪ 自分の問題の解決につながる	151	17.9%
⑫ ソーシャルビジネスの勉強になる	133	15.8%
⑬ 進学、就職などで有利になる	96	11.4%
⑭ わからない	13	1.5%
⑮ その他	12	1.4%

「その他」の自由記述の例：自分の子どもや次世代のためになること、社会の意識の変化、期待することはない 等

回答の1位、2位に「① 身近な地域の役に立てる」、「② 社会に貢献できる」が続き、「④ 困っている人や誰かの力になれる」も4位と高い。

## 【まちづくり活動への参加に期待すること（年代別）】

選択肢	18～19歳 (n=96)	20～24歳 (n=192)	25～29歳 (n=148)	30～34歳 (n=185)	35～39歳 (n=223)
① 身近な地域の役に立てる	51.0%	56.8%	44.6%	53.5%	57.8%
② 社会に貢献できる	54.2%	56.8%	47.3%	53.0%	53.8%
③ 人とのつながりを増やせる	54.2%	56.8%	45.9%	47.6%	49.3%
④ 困っている人や誰かの力になれる	63.5%	46.4%	43.2%	44.9%	50.7%
⑤ 自分の成長やキャリアアップにつながる	54.2%	41.7%	50.0%	38.4%	37.7%
⑥ 楽しい時間を過ごせる	40.6%	27.1%	29.7%	40.0%	36.3%
⑦ 自分の知識やスキルが活かせる	34.4%	34.9%	27.7%	37.3%	30.9%
⑧ やりたいことが見つかる	25.0%	23.4%	23.6%	25.9%	22.4%
⑨ 余暇時間を有意義に使える	27.1%	17.7%	16.9%	20.5%	20.2%
⑩ 特別な知識やスキルなしでも参加できる	20.8%	20.3%	16.2%	19.5%	19.7%
⑪ 自分の問題の解決につながる	18.8%	22.4%	14.2%	12.4%	20.6%
⑫ ソーシャルビジネスの勉強になる	14.6%	13.5%	16.9%	16.2%	17.0%
⑬ 進学、就職などで有利になる	32.3%	20.8%	4.7%	5.9%	3.1%
⑭ わからない	2.1%	1.0%	0.7%	1.6%	2.2%
⑮ その他	0.0%	2.1%	0.0%	2.7%	1.3%

どの年齢層においても、「① 身近な地域の役に立てる」、「② 社会に貢献できる」、「④ 困っている人や誰かの力になれる」の「貢献」に関する回答が多く、18～19歳では、「④ 困っている人や誰かの力になれる」との回答が最も多い。

「貢献」に関するもの以外では、「③ 人とのつながりを増やせる」、「⑤ 自分の成長やキャリアアップにつながる」、「⑥ 楽しい時間を過ごせる」との回答がどの年齢層でも多く、24歳以下では、「③ 人とのつながりを増やせる」との回答が他の年齢層よりも多い。

PLUS

### 若者活躍事業参加者の声

自分の成長を感じた場面を伺ったところ、誰かに頼らず自分たちで何ができるかを考え、発言・行動できたこと等の主体性に関する声や、議論の進め方を学んだこと、グループ運営に四苦八苦したこと等、協調性の面で成長を感じている若者もいた。

また、「楽しい」と感じる場面については、市民からの嬉しい反応等のほか、年代や職業が違う方々から話を聞くことや、一緒に活動するメンバーとの話し合いや何気ない会話等、他者との関係性を通して楽しいと感じたという声があった。



【まちづくり活動への参加に期待すること（セグメント毎）】

選択肢	活動層 (n=121)	経験層 (n=109)	関心層 (n=614)
① 身近な地域の役に立てる	66.9%	62.4%	49.3%
② 社会に貢献できる	60.3%	51.4%	52.1%
③ 人とのつながりを増やせる	70.2%	58.7%	45.3%
④ 困っている人や誰かの力になれる	54.5%	49.5%	47.2%
⑤ 自分の成長やキャリアアップにつながる	50.4%	45.9%	40.7%
⑥ 楽しい時間を過ごせる	48.8%	33.9%	31.6%
⑦ 自分の知識やスキルが活かせる	47.9%	37.6%	29.3%
⑧ やりたいことが見つかる	29.8%	22.0%	23.1%
⑨ 余暇時間を有意義に使える	22.3%	24.8%	18.6%
⑩ 特別な知識やスキルなしでも参加できる	23.1%	18.3%	18.7%
⑪ 自分の問題の解決につながる	25.6%	16.5%	16.6%
⑫ ソーシャルビジネスの勉強になる	22.3%	11.9%	15.1%
⑬ 進学、就職などで有利になる	15.7%	14.7%	9.9%
⑭ わからない	0.0%	0.9%	2.0%
⑮ その他	1.7%	1.8%	1.3%

どのセグメントにおいても、「① 身近な地域の役に立てる」、「② 社会に貢献できる」、「④ 困っている人や誰かの力になれる」の「貢献」に関する回答が多い。

「貢献」に関するもの以外では、「③ 人とのつながりを増やせる」、「⑤ 自分の成長やキャリアアップにつながる」、「⑥ 楽しい時間を過ごせる」との回答が多いが、活動層では、実際の活動を通しての実感があるのか、「③ 人とのつながりを増やせる」との回答が他のセグメントよりも特に多い。

**PLUS** >> 若者活躍事業参加者の声

人とのつながりが増えたことのメリットを伺ったところ、自分たちの活動の認知度や活動の幅が広がる等の活動面でのメリットや、多様な考え方を知り、多角的な物事の見方ができるようになった等、自分の成長にもつながると感じている声があった。

また、社会人と交流できたことで視野が広がり就職活動にも役立つ、新しい友人や仕事の悩み等を相談する仲間ができる等のプライベートの充実を感じている若者もいた。

## まちづくり活動に参加したきっかけ

(質問7で、まちづくり活動に参加した「経験がある」と答えた方のみ回答)

〔質問8〕

まちづくり活動に参加した直接的なきっかけは、どのようなものでしたか。  
(複数選択可)

選択肢	回答数	割合
① 学校や職場で参加する機会を与えられて	138	52.9%
② 自発的な意思	97	37.2%
③ 人に勧められて、誘われて	50	19.2%
④ 町内会などの地域の団体で参加する機会を与えられて	50	19.2%
⑤ ワークショップやセミナーなどのイベント	43	16.5%
⑥ その他	6	2.3%

「その他」の自由記述の例：仕事として携わって 等

## まちづくり活動への参加形態

(質問7で、まちづくり活動に参加した「経験がある」と答えた方のみ回答)

〔質問9〕まちづくり活動にはどのような立場で関わりましたか。

(複数選択可)

選択肢	回答数	割合
① 既存の団体やグループの一員として活動	125	47.9%
② 学校のサークルやゼミなどで活動	84	32.2%
③ 個人で活動	66	25.3%
④ ワークショップなどのイベントの参加者として	51	19.5%
⑤ 団体やグループなどを立ち上げて活動	36	13.8%
⑥ 職場のCSR活動として	15	5.7%
⑦ その他	6	2.3%

## まちづくり活動者の知人

〔質問10〕 あなたの周りでまちづくり活動を行っている人がいますか。

選択肢	回答数	割合
はい	235	21.5%
いいえ	276	25.3%
わからない	581	53.2%

この質問については、「わからない」との回答が多かったが、次の若者活躍事業参加者の声のとおり、身近な活動者の存在は、活動を始めるきっかけにつながっている。

### PLUS >> 若者活躍事業参加者の声

質問として、「初めてまちづくり活動に参加したきっかけの1つに、既にまちづくり活動に参加している友人・知人の話を聴いたり、その人の活動を見聞きして、自分も参加してみたいと思ったことがあるか」と伺ったところ、6割の方が「思ったことがある」と答えた。身近な活動者の存在が、若者が活動へと踏み出す後押しに一定程度つながっている。

## まちづくり活動に参加することへの不安、参加の妨げ

〔質問 1 1〕

まちづくり活動に参加することへの不安や、参加の妨げになると思うことは何ですか。

(複数選択可)

選択肢	回答数	割合
① 活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担	689	63.1%
② 活動事例や団体などの情報がわからない	499	45.7%
③ 自分に何ができるかわからない	467	42.8%
④ 自分の他の予定が立てづらくなる	430	39.4%
⑤ 先に活動している人の輪に入れるか不安	402	36.8%
⑥ 新型コロナウイルス感染症の影響	345	31.6%
⑦ 一緒に参加する仲間がいない	341	31.2%
⑧ いつまで参加し続けられるかわからない	292	26.7%
⑨ 特別な知識やスキルがないと参加しづらい	186	17.0%
⑩ 特に不安や妨げになることはない	32	2.9%
⑪ わからない	26	2.4%
⑫ その他	46	4.2%

「その他」の自由記述の例：自分の生活で精一杯、仕事との兼ね合い、まちづくり活動が何か分からない、入り口が分からない、転勤がある、子連れで参加できるか・預けられるか、特定の思想等に勧誘される不安、資金面の不安、行政へのご意見 等

### 【まちづくり活動に参加することへの不安、参加の妨げ（年代別）】

選択肢	18～19歳 (n=122)	20～24歳 (n=252)	25～29歳 (n=190)	30～34歳 (n=241)	35～39歳 (n=287)
① 活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担	53.3%	57.9%	62.6%	68.0%	67.9%
② 活動事例や団体などの情報がわからない	44.3%	41.7%	47.4%	47.3%	47.4%
③ 自分に何ができるのかわからない	44.3%	47.6%	39.5%	44.0%	39.0%
④ 自分の他の予定が立てづらくなる	34.4%	43.3%	38.4%	37.3%	40.4%
⑤ 先に活動している人の輪に入れるか不安	36.1%	41.7%	35.8%	36.1%	34.1%
⑥ 新型コロナウイルス感染症の影響	32.8%	30.6%	27.4%	33.6%	33.1%
⑦ 一緒に参加する仲間がいない	37.7%	30.6%	33.7%	33.6%	25.4%
⑧ いつまで参加し続けられるかわからない	22.1%	27.8%	20.0%	30.3%	29.3%
⑨ 特別な知識やスキルがないと参加しづらい	21.3%	17.1%	17.9%	15.8%	15.7%
⑩ 特に不安や妨げになることはない	3.3%	2.0%	4.7%	1.7%	3.5%
⑪ わからない	1.6%	3.2%	1.6%	0.8%	3.8%
⑫ その他	2.5%	2.4%	1.6%	5.8%	7.0%

### 【まちづくり活動に参加することへの不安、参加の妨げ（職業別）】

選択肢	学生 (n=322)	勤め人 (常勤) (n=533)	勤め人 (パート・アルバ イトなど) (n=85)	会社・団体 などの役員 (n=35)	自営業者 (家族従業の 方を含む) (n=29)	家事専業 (n=54)	無職 (n=32)
① 活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担	54.7%	69.0%	60.0%	60.0%	65.5%	59.3%	62.5%
② 活動事例や団体などの情報がわからない	44.7%	46.3%	47.1%	42.9%	44.8%	50.0%	40.6%
③ 自分に何ができるのかわからない	47.2%	40.7%	40.0%	34.3%	37.9%	42.6%	53.1%
④ 自分の他の予定が立てづらくなる	39.1%	39.2%	47.1%	42.9%	34.5%	31.5%	37.5%
⑤ 先に活動している人の輪に入れるか不安	39.4%	34.1%	40.0%	31.4%	31.0%	42.6%	46.9%
⑥ 新型コロナウイルス感染症の影響	31.4%	27.4%	45.9%	31.4%	34.5%	46.3%	37.5%
⑦ 一緒に参加する仲間がいない	32.9%	31.0%	32.9%	28.6%	13.8%	38.9%	21.9%
⑧ いつまで参加し続けられるかわからない	26.7%	27.4%	25.9%	25.7%	31.0%	16.7%	31.3%
⑨ 特別な知識やスキルがないと参加しづらい	20.2%	13.9%	23.5%	8.6%	13.8%	24.1%	15.6%
⑩ 特に不安や妨げになることはない	3.1%	3.2%	2.4%	5.7%	3.4%	0.0%	0.0%
⑪ わからない	2.8%	1.7%	3.5%	0.0%	3.4%	3.7%	6.3%
⑫ その他	3.4%	3.9%	2.4%	5.7%	6.9%	9.3%	9.4%

## 【まちづくり活動に参加することへの不安、参加の妨げ（セグメント毎）】

選択肢	活動層	経験層	関心層	潜在層 〔経験あり〕	潜在層 〔経験なし〕
	(n=121)	(n=109)	(n=614)	(n=31)	(n=217)
① 活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担	52.1%	57.8%	66.3%	58.1%	63.6%
② 活動事例や団体などの情報がわからない	26.4%	40.4%	50.0%	16.1%	51.2%
③ 自分に何ができるのかわからない	26.4%	32.1%	49.0%	16.1%	43.3%
④ 自分の他の予定が立てづらくなる	27.3%	27.5%	40.6%	48.4%	47.5%
⑤ 先に活動している人の輪に入れるか不安	25.6%	42.2%	39.6%	19.4%	35.0%
⑥ 新型コロナウイルス感染症の影響	36.4%	29.4%	33.2%	25.8%	26.3%
⑦ 一緒に参加する仲間がいない	24.8%	33.0%	31.6%	19.4%	34.6%
⑧ いつまで参加し続けられるかわからない	34.7%	26.6%	26.9%	22.6%	22.6%
⑨ 特別な知識やスキルがないと参加しづらい	12.4%	15.6%	18.2%	19.4%	16.6%
⑩ 特に不安や妨げになることはない	6.6%	3.7%	1.6%	6.5%	3.7%
⑪ わからない	1.7%	1.8%	1.6%	0.0%	5.5%
⑫ その他	5.0%	4.6%	3.6%	16.1%	3.7%

どの年代、職業、セグメントにおいても、「① 活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担」との回答が最も多い。

活動層では、「⑥ 新型コロナウイルス感染症の影響」、「⑧ いつまで参加し続けられるかわからない」との回答が他のセグメントと比較して多い。

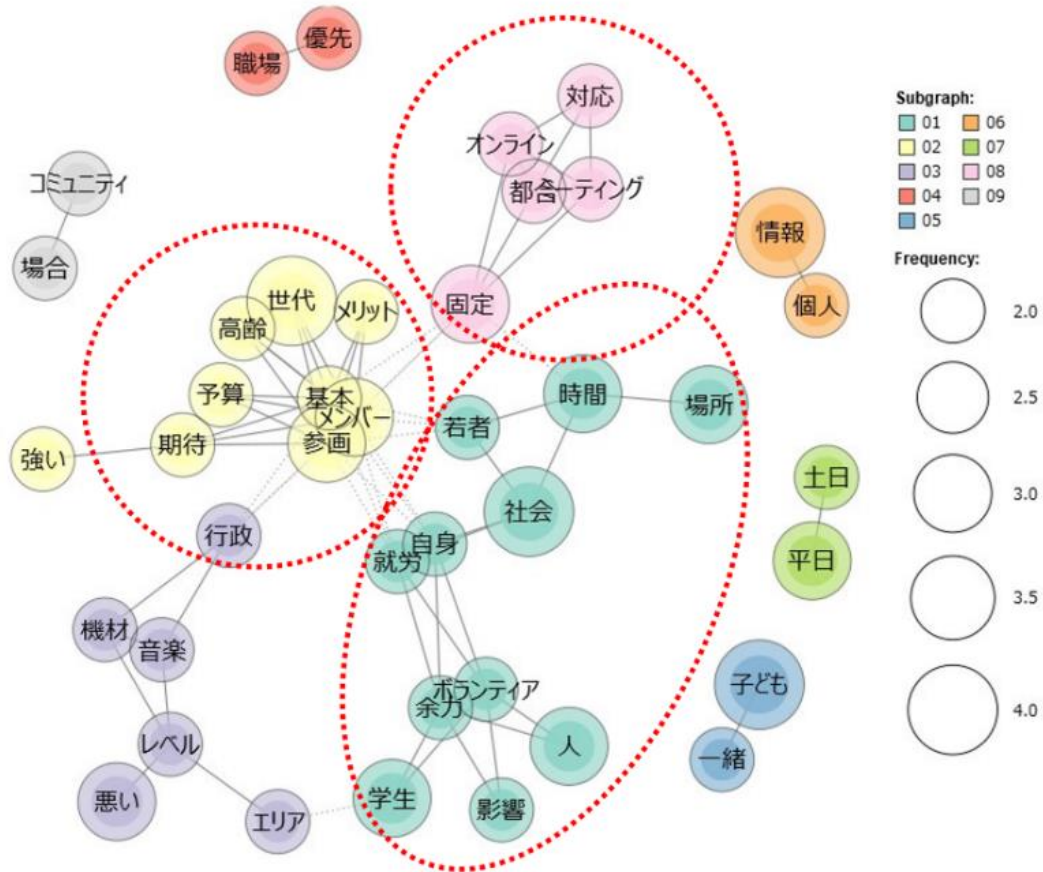
活動経験がない関心層・潜在層〔経験なし〕では、「② 活動事例や団体などの情報がわからない」、「③ 自分に何ができるのかわからない」、「④ 自分の他の予定が立てづらくなる」等の回答が多く、活動経験がないためにイメージができないことにより、活動に参加することへの不安等を感じていると考えられる。若者が活動へと踏み出すには、まちづくり活動に参加したイメージをもってもらうことが重要である。

### PLUS >> 若者活躍事業参加者の声

参加する前の不安に対して、事前にどのような情報があれば良かったのか伺ったところ、事業を通して「出来ること・出来ないこと」等の具体的で分かりやすい例示、イベント参加者の職業や年齢層等の情報とともに、SNSへの積極的な投稿や、イメージのしやすさから過去の事業内容を動画で視聴できると便利、ワクワクするといった声があった。

## 【「その他」の自由記述の分析】

東北大学・高浦研究室提供



(頻出語の共起ネットワーク : KH Coder を用いた分析)

### ※ 図の見方

出現数が多い語ほど大きく描画し、関連する語を色分けしている。また、言葉と言葉のつながり（共起）を直線で表し、共起の度合いが強いほど太い線で描画している。

町内会等の地域活動は高齢世代が固定的メンバーとして中核を担っていることから、若い人たちが参画しづらいという声が見られた。

若者世代はアルバイト、仕事、子育て等で忙しく、社会貢献の思いはあっても地域活動やボランティアに参加する時間的余裕や余力がないという声も目立った。ただし地域活動な

どでオンライン・ミーティングなどの機会が増えれば、現役世代も都合がつけやすいとの声があった。

行政に対してはまちづくり活動の IT 環境の整備や予算面での支援を望む声が見られた。

一方、学生がまちづくりに関わることのできるエリアが学校周辺に限定されており、ニーズの必要な地域に支援が届かないことを懸念する声もあった。

そのほか、見ず知らずの団体への個人情報流出を不安視する声もあった。また、そもそもまちづくり活動が何か分からないという声もあった。

⇒地域活動に若い世代を呼び込むことは容易ではないが、市の地域づくりパートナープロジェクト推進助成を受けた大学生の団体が、町内会とイベント企画を重ねる中で、地域の子育て世帯が活動への関心を高めるきっかけになったケースもある。地域づくりに多様な世代が関わる上で、こうした学生の地域活動は地域の潤滑油としての役割が期待できることから、市としても本助成制度のような支援の継続が望まれる。また、まちづくり活動が何であるか、多様な担い手による協働の意義も含めて若者世代に伝え、啓発していくことも必要である。さらに、日本語能力の問題から関わりを控えているとの声もあったことから、地域に住む留学生や若い外国人も包摂するような取り組みも求められる。



## まちづくり活動に参加する若者が増えるために重要なこと

〔質問 1 2〕

まちづくり活動に参加する若者が増えるには、何が重要だと思いますか。

(複数選択可)

選択肢	回答数	割合
① 事前申込なしで短時間でも体験できる機会	607	55.6%
② 交通費や会場使用料などの経費の支援	514	47.1%
③ 個人で参加できる機会	508	46.5%
④ 活動中の人や興味のある人たちが集う交流の機会	468	42.9%
⑤ 行政や地域などから課題や一緒に取り組みたいことなどが示される	330	30.2%
⑥ 活動のアドバイスが受けられること	262	24.0%
⑦ 自分の知識やスキルが活かせること	226	20.7%
⑧ 打合せなどができるフリースペース	158	14.5%
⑨ 活動が表彰される仕組み	122	11.2%
⑩ わからない	44	4.0%
⑪ その他	100	9.2%

「その他」の自由記述の例：SNSを使った情報の提示、無償でないこと、若者にとってメリットがあること、若者の意見が反映されること・若者に決定権があること、団体や活動を知る機会、小中学校・高等学校への市職員による出前講座、政治や社会に対するご意見 等

「① 事前申込なしで短時間でも体験できる機会」が 55.6%、「③ 個人で参加できる機会」が 46.5%と多く、活動の入り口として「気軽さ」が重要である。

また、「② 交通費や会場使用料などの経費の支援」も 47.1%と多かった。

【まちづくり活動に参加する若者が増えるために重要なこと（セグメント毎）】

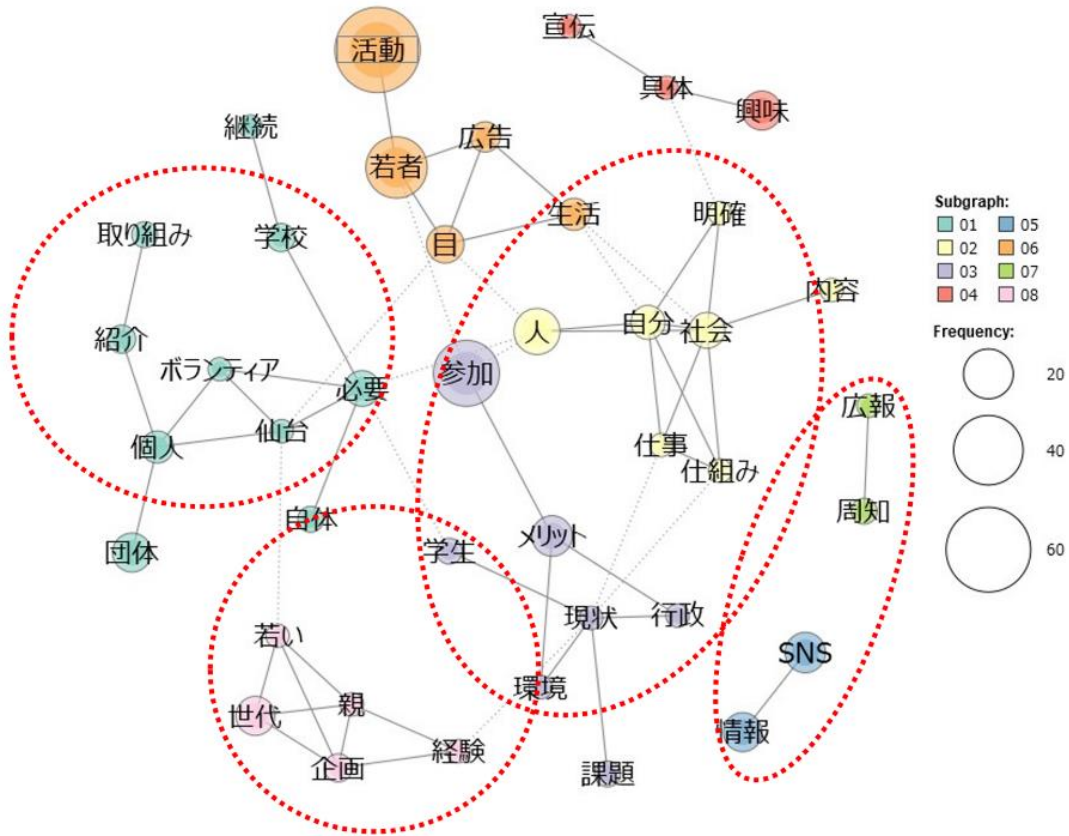
選択肢	活動層	経験層	関心層	潜在層 【経験あり】	潜在層 【経験なし】
	(n=121)	(n=109)	(n=614)	(n=31)	(n=217)
① 事前申込なしで短時間でも体験できる機会	43.8%	55.0%	60.3%	67.7%	47.5%
② 交通費や会場使用料などの経費の支援	50.4%	50.5%	46.4%	48.4%	45.2%
③ 個人で参加できる機会	50.4%	45.9%	51.1%	25.8%	34.6%
④ 活動中の人や興味のある人たちが集う交流の機会	61.2%	47.7%	44.1%	22.6%	29.5%
⑤ 行政や地域などから課題や一緒に取り組みたいことなどが示される	43.0%	32.1%	30.6%	12.9%	23.5%
⑥ 活動のアドバイスが受けられること	21.5%	17.4%	29.2%	9.7%	16.1%
⑦ 自分の知識やスキルが生かせること	28.9%	21.1%	21.0%	9.7%	16.6%
⑧ 打合せなどができるフリースペース	28.9%	18.3%	12.7%	6.5%	10.6%
⑨ 活動が表彰される仕組み	21.5%	8.3%	9.3%	9.7%	12.4%
⑩ わからない	1.7%	0.9%	2.1%	0.0%	12.9%
⑪ その他	15.7%	10.1%	7.0%	19.4%	9.7%

関心層にとっては、「① 事前申込なしで短時間でも体験できる機会」との回答が 60.3%と最も多く、次いで「③ 個人で参加できる機会」との回答が 51.1%で、気軽に始められる活動の入り口を求めていることが分かった。

活動層にとっては、「④ 活動中の人や興味のある人たちが集う交流の機会」が重要であるとの回答が 61.2%と最も多かった。質問 6 のまちづくり活動への参加に期待することとして、活動層では、「人とのつながりを増やせる」との回答が他のセグメントよりも特に多かったことから、人とのつながりを増やせることや、交流の機会があることが活動を継続するうえでのポイントとなる可能性がある。

## 【「その他」の自由記述の分析】

東北大学・高浦研究室提供



(頻出語の共起ネットワーク：KH Coder を用いた分析)

※ 図の見方

出現数が多い語ほど大きく描画し、関連する語を色分けしている。また、言葉と言葉のつながり（共起）を直線で表し、共起の度合いが強いほど太い線で描画している。

若者に馴染みのある SNS での情報発信、地下鉄駅での広告・宣伝活動を推す声が多く見られた。また学校の教育現場や媒体資料を通じた取り組み事例の紹介などがあると良いとの声もあった。

若者世代においては生活により余裕がなくなっていることも課題であるとの指摘があった。その中でまちづくり参加への動機づけとして、学生や若者が自分の進路や仕事の上でのメリットが感じられるような仕組みが必要であると指摘する声も非常に多かった。

さらに、親世代に比べれば経験の浅い若い世代であっても企画主導の権限を与えるべきという意見も一定程度見られた。

行政側に対しては、団体の適格性を保証する認証制度や、団体と個人をつなぐマッチング的な機能を期待する声も見受けられた。

⇒同年代の取り組み事例を見ることで若者たちも共感し、まちづくりへの関心を高めることができるという指摘もあり、そのような事例共有の機会を学校や職場また SNS を通じて増やすことが望まれる。そして参画への呼びかけにあたっては地域の課題解決の視点のみならず、関わる当人たちの自己実現や成長につながることを訴えていくことも必要である。また、単なるまちづくり活動のパーツとして若者たちをとらえるのではなく、より主体的に企画立案にあたる存在としてとらえる視点も重要である。市のまちづくり若者ラボの活動のように、高い志をもった若者世代の活躍を後押しするような取り組みの拡充が求められる。

## 仙台市役所の取り組み等を知る手段

〔質問 1 3〕

仙台市役所の取り組みやイベントなどの情報を、どの方法で知ることが多いですか。

(複数選択可)

回答の偏りの比較のために、調査を知ったきっかけとして住民基本台帳からの無作為抽出である「市役所からの郵便物」を併記した。

【全体 (n=1092)】

選択肢	回答数	割合
市政だより	488	44.7%
仙台市公式LINEアカウント	268	24.5%
新聞・テレビ・ラジオ	254	23.3%
学校や職場からの案内	233	21.3%
Twitter	202	18.5%
仙台市ホームページ	199	18.2%
チラシ・ポスター	160	14.7%
Webメディア	145	13.3%
Instagram	112	10.3%
人からの紹介・口コミ	110	10.1%
You Tube	69	6.3%
Facebook	44	4.0%
仙台市メール配信サービス	32	2.9%
その他	39	3.6%

【市役所からの郵便物 (n=530)】

選択肢	回答数	割合
市政だより	263	49.6%
新聞・テレビ・ラジオ	145	27.4%
Twitter	96	18.1%
チラシ・ポスター	94	17.7%
仙台市ホームページ	84	15.8%
Webメディア	65	12.3%
学校や職場からの案内	63	11.9%
Instagram	61	11.5%
You Tube	45	8.5%
人からの紹介・口コミ	41	7.7%
仙台市公式LINEアカウント	37	7.0%
Facebook	18	3.4%
仙台市メール配信サービス	6	1.1%
その他	29	5.5%

「その他」の自由記述の例：知る機会がない 等

「市政だより」はどちらの集計でも、市の情報を得る手段として多い。

「全体」の集計において、「仙台市公式 LINE アカウント」「学校や職場からの案内」との回答は多く、アンケートの周知に効果があったものと思われる。

【仙台市役所の取り組み等を知る手段（全体・年齢毎）】

選択肢	18～19歳 (n=122)	20～24歳 (n=252)	25～29歳 (n=190)	30～34歳 (n=241)	35～39歳 (n=287)
市政だより	17.2%	29.8%	36.8%	59.3%	62.4%
仙台市公式LINEアカウント	4.1%	14.3%	27.9%	31.5%	34.1%
新聞・テレビ・ラジオ	22.1%	19.8%	21.6%	23.2%	27.9%
学校や職場からの案内	48.4%	40.9%	8.9%	9.1%	11.1%
Twitter	26.2%	22.6%	21.6%	14.1%	13.2%
仙台市ホームページ	14.8%	16.3%	18.9%	21.6%	18.1%
チラシ・ポスター	15.6%	16.3%	15.3%	12.4%	14.3%
Webメディア	13.9%	16.7%	12.6%	10.8%	12.5%
Instagram	13.1%	11.5%	8.9%	9.5%	9.4%
人からの紹介・口コミ	18.0%	11.1%	7.4%	9.1%	8.4%
You Tube	7.4%	6.7%	7.9%	6.6%	4.2%
Facebook	1.6%	2.8%	3.7%	4.1%	6.3%
仙台市メール配信サービス	0.0%	2.4%	1.6%	4.1%	4.5%
その他	4.1%	3.2%	7.4%	1.7%	2.8%

【仙台市役所の取り組み等を知る手段（市役所からの郵便物・年齢毎）】

選択肢	18～19歳 (n=34)	20～24歳 (n=79)	25～29歳 (n=116)	30～34歳 (n=141)	35～39歳 (n=160)
市政だより	26.5%	27.8%	40.5%	58.9%	63.8%
新聞・テレビ・ラジオ	26.5%	27.8%	25.9%	24.1%	31.3%
Twitter	23.5%	25.3%	25.0%	14.9%	11.3%
チラシ・ポスター	11.8%	24.1%	19.0%	17.0%	15.6%
仙台市ホームページ	17.6%	15.2%	14.7%	17.7%	15.0%
Webメディア	2.9%	19.0%	12.1%	11.3%	11.9%
学校や職場からの案内	29.4%	11.4%	6.9%	12.1%	11.9%
Instagram	20.6%	15.2%	11.2%	9.2%	10.0%
You Tube	11.8%	8.9%	10.3%	7.8%	6.9%
人からの紹介・口コミ	11.8%	7.6%	6.9%	9.9%	5.6%
仙台市公式LINEアカウント	2.9%	3.8%	7.8%	7.8%	8.1%
Facebook	2.9%	1.3%	3.4%	2.1%	5.6%
仙台市メール配信サービス	0.0%	1.3%	0.0%	1.4%	1.9%
その他	8.8%	5.1%	9.5%	2.8%	4.4%

「市政だより」は、特に30代で高くなっている。子育て中の方が多い世代となるため、子どもの検診や予防接種の情報等を市政だよりで確認することも多いからではないかと考えられる。

TwitterやInstagram、Facebook等のSNSについては、「Twitter」は29歳以下で多く、「Instagram」は24歳以下に多く、若者の中でも年齢が低い層で多く利用されている。

【仙台市役所の取り組み等を知る手段（全体・セグメント毎）】

選択肢	活動層	経験層	関心層	潜在層 〔経験あり〕	潜在層 〔経験なし〕
	(n=121)	(n=109)	(n=614)	(n=31)	(n=217)
市政だより	43.8%	45.9%	44.5%	35.5%	46.5%
仙台市公式LINEアカウント	16.5%	23.9%	29.0%	22.6%	17.1%
新聞・テレビ・ラジオ	25.6%	30.3%	21.0%	25.8%	24.4%
学校や職場からの案内	29.8%	27.5%	20.2%	19.4%	17.1%
Twitter	17.4%	15.6%	22.0%	22.6%	10.1%
仙台市ホームページ	23.1%	21.1%	17.4%	16.1%	16.6%
チラシ・ポスター	19.8%	17.4%	12.9%	22.6%	14.3%
Webメディア	19.8%	18.3%	11.9%	19.4%	10.1%
Instagram	15.7%	8.3%	10.6%	19.4%	6.0%
人からの紹介・口コミ	33.9%	12.8%	6.5%	3.2%	6.5%
You Tube	5.0%	3.7%	7.3%	3.2%	6.0%
Facebook	14.0%	7.3%	2.3%	6.5%	1.4%
仙台市メール配信サービス	2.5%	8.3%	2.9%	3.2%	0.5%
その他	4.1%	0.9%	3.9%	3.2%	3.7%

「市政だより」は、どのセグメントにおいても高い。

活動層は、「人からの紹介・口コミ」が他のセグメントよりも高い。

関心層は、順番に「市政だより」、「仙台市公式LINEアカウント」、「Twitter」、「新聞・テレビ・ラジオ」、「学校や職場からの案内」が高い。

「Facebook」は、活動経験の有無によって違いが見られ、活動層においては一定の回答があったが、関心層、潜在層〔経験なし〕においては特に低い回答であった。

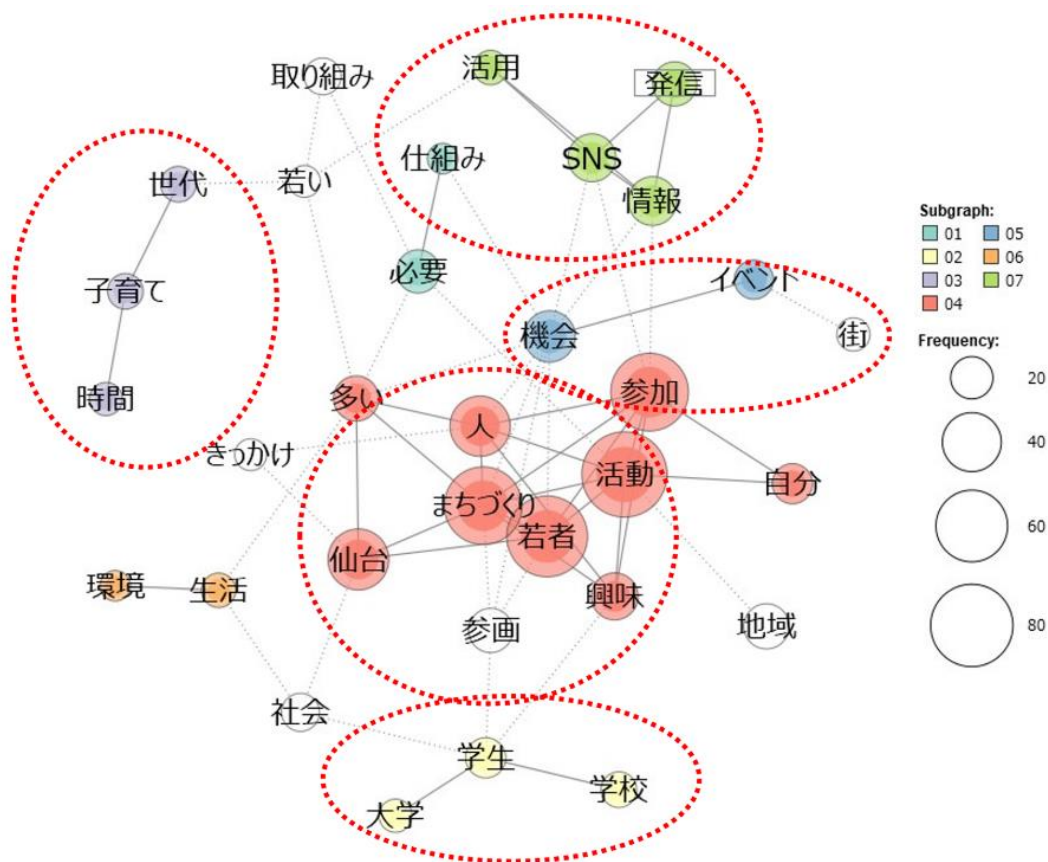


## その他自由記述

〔質問14〕

その他、より多くの若者がまちづくりに参画するためのアイデアや、補足したいことなどがあればご記入ください。

東北大学・高浦研究室提供



(頻出語の共起ネットワーク : KH Coder を用いた分析)

※ 図の見方

出現数が多い語ほど大きく描画し、関連する語を色分けしている。また、言葉と言葉のつながり（共起）を直線で表し、共起の度合いが強いほど太い線で描画している。

街コン<sup>(注)</sup> などのような、若者が楽しんで参加できるイベントがあれば、まちづくりに関わる機会になると期待する声が多かった。

とくに子育て世代は時間的余裕がなく、子育て支援などの環境を整えることが前提になるとの意見も多くあった。一方で、子どもと参加できる活動を望む声や子育ての経験をまちづくりに活かすことを希望する声もあった。

日々の生活に追われる若者世代も、自分にとって興味があり価値をもつと感じられるなら進んで参加するとの声もあった。学生が多く、多様な人材を呼び込むことのできる仙台の魅力さをさらに高めるまちづくりを期待する声も見られた。

学校・大学と連携し学校・大学単位での活動がより広がれば、学生のうちからまちづくりに関わる機会につながるとの声もあった。

その他、市政だより等の従来の媒体以外に SNS を活用した情報発信により力を入れ、若者に地域活動の情報が的確に届くことを望む声もあった。

⇒若者世代に地域の活動に関心を持ってもらううえで、まちづくり活動の堅苦しいイメージを払拭し、よりオープンで気軽に楽しく参加できるイベントとしてとらえてもらうことが重要である。そうした企画に市としても積極的に取り組み、情報発信を行い、若者がまちづくりに自然と関わる機会を増やすことが必要である。また子育て世帯に対しては、仕事と子育てと地域づくりの3つが両立する環境を整えることも目指していくべきであろう。このことは、いかに若者世代に市への愛着をもってもらうか、という内部ブランディングの視点からもとらえ直す価値があるといえる。

(注) 街コン … 地域振興を目的に街全体で行われるコンパイベント。

# ワークショップ

## ワークショップの概要

名 称： U39まち活トーク「マチダさんのまち活デビュー」

実施日時： 令和4年11月30日（水曜日）18時30分から20時

会 場： 青葉の風テラス（地下鉄東西線国際センター駅2階）

参加人数： 25人

実施方法： グループディスカッション

内 容： 若者たちがまちづくり活動に対して抱いているイメージや考え方を把握するために、まちづくり活動を始める若者を主人公とした物語を参加者が話し合っって創作した。

周知方法： 市ホームページやSNS、チラシ等で広く周知するとともに、大学や市民活動団体等に周知協力を依頼した。

## 参加者の属性

性別	参加	年齢	参加	経験	参加
男性	11	18～19歳	4	ない	16
女性	14	20～24歳	16	半年未満	3
無回答	0	25～29歳	3	半年以上1年未満	1
		30～34歳	1	1年以上3年未満	2
		35～39歳	1	3年以上	3

## ワークショップの流れ

※ 進行に使用したスライドは巻末付録 P. 59～を参照

### (1) 全体説明

#### ① テーマ説明等（10分）

- ・ まちづくり活動の定義の確認。
- ・ 本日のグループワークの目標を確認。

グループごとに、「まだ、まちづくり活動をしたことがない一人の若者が活動を始めるに至るまで」の物語を考える。

- ・ 自己紹介とグループ内の役割決め

〔役割〕

リーダー、書記、タイムキーパー、発表、盛り上げ係

- ・ 主人公の大まかな設定（名前・年齢・職業）が書かれたカード（右図）を各グループの盛り上げ係に引いてもらう。

〔6人の主人公〕

樹（いつき）	24歳	常勤の勤め人	石川県出身
聡（さとし）	38歳	自営業・会社役員等	仙台市出身
優希（ゆうき）	19歳	学生	山形県出身
アイン	27歳	ベトナム出身	
怜子（れいこ）	34歳	二児の母	宮城県栗原市出身
マチダ		自由設定	



#### ② アイスブレイク（5分）

- ・ 主人公の絵を描く。

### (2) グループトーク（30分）

- ・ 以下の内容を話し合いながら、物語を作る。

主人公の設定（性格・好き嫌い・職業・家族等）

まちづくり活動をしていない理由

まちづくり活動を始めたきっかけ・出来事

どんな活動をしたか 活動中の様子 活動を始めた後の変化 等

### (3) まとめ（10分）

- ・ 1,200文字程度※の分量でまとめる。

※ 発表時間4分。1分で話せる文字数は約300文字と想定。

### (4) 発表（30分）

- ・ 描いてもらった主人公の絵をスライドで映した状態でグループ毎に発表する。

## 各グループが創作した物語

〔グループ1〕 樹（いつき） 24歳 常勤の勤め人 石川県出身  
（設定のねらい） 県外出身で就職したての若者



### 〔参加者が設定した人物像〕

男性 社会人2年目 独身  
東北福祉大を卒業し、そのまま仙台で就職  
介護職 緊張しがちで汗かき  
仕事をバリバリやる感じではない  
年収 400万円から 500万円  
2歳下の妹がいる 優しく、面倒見がよい  
学生時代は吹奏楽部（サクソ担当）  
ジャズフェスにいつか出演したい  
旅行とカメラが趣味で、Facebook に写真を  
アップしている  
Instagram は敢えてやっていない

樹さんは社会人2年目。まち活に興味はあるものの、仕事が忙しく、またきっかけもなく、始められていませんでした。しかし、介護の仕事を通して高齢者の方と関わるうちに、シニアや子どものサポートをしたいと思う気持ちが強くなり、NPOでボランティアとして、居場所づくりの活動を始めました。

また、趣味のカメラで撮った活動の写真をSNSで自分から発信を行っていくうちに、内気な性格が、少しずつ自信に繋がっていき、徐々に社交的な性格になっていきました。NPOの方々と交流が広がることで、生活に張りが出て、仕事もまち活もモチベーションがアップしていきます。ボランティア活動に対する職場の理解もあり、継続することができています。

ゆくゆくは趣味のカメラでボランティア活動の様子を撮影した写真をフォトブックにして、施設に配ったり、写真展を開いたりしてみたいと思っています。

学生時代に行っていたサクソでジャズフェスにも参加してみたいとも思っています。

〔グループ2〕 アイン 27歳 ベトナム出身

(設定のねらい) 海外出身者



〔参加者が設定した人物像〕

男性 技能実習生として農業に従事  
日本に来て5年目で技能実習の最終年  
ベトナムには父母と5人の兄弟がいる  
責任感のある長男  
コンビニでのアルバイトを掛け持ちしている  
シャイな性格だが、根は明るいので、1日で  
仲良くなれる  
ベトナム語以外に、英語が話せる  
日本語は少しずつ上達してきている

ベトナム人のアインさん、27歳男性。技能実習生として来日して今年で5年目です。

少しシャイな性格で、日本語も苦手だったため、ベトナム人のコミュニティの外に出る勇気が出ず、まちづくり活動に参加する機会がありませんでした。しかし、今年は技能実習の最後の年。はじめはベトナムに帰るつもりでしたが、だんだん日本に残りたい気持ちも芽生えてきました。日本に残る場合、日本のコミュニティに参加して、日本のことをもっと知りたいと思い、一歩を踏み出し、地域の祭りのボランティアに参加してみました。

また、職業の専門性と自身の語学能力を活かした活動、例えばベトナムから観光に来られた方に宮城のお米の現状を紹介する通訳やガイドのような活動を始めました。

アインさんは技能実習生として来日しているため、一旦母国に帰る必要があります。初めは日本語が不安だったため、日本に永住することは考えていませんでしたが、まちづくり活動を通して、日本が好きになり、また宮城に帰ってきたいと思うようになりました。

元々はシャイな性格でしたが、まちづくり活動を通して様々な方と交流するなかで、社交性が身に付き、人と話すことに自信がつけました。また、活動をしてみると、日本人と関わることへの苦手意識も薄れ、ベトナム人のコミュニティに留まらず、より多くの方と交流が広がりました。

〔グループ3〕 優希（ゆうき） 19歳 学生 山形県出身  
（設定のねらい） 県外出身の学生



〔参加者が設定した人物像〕

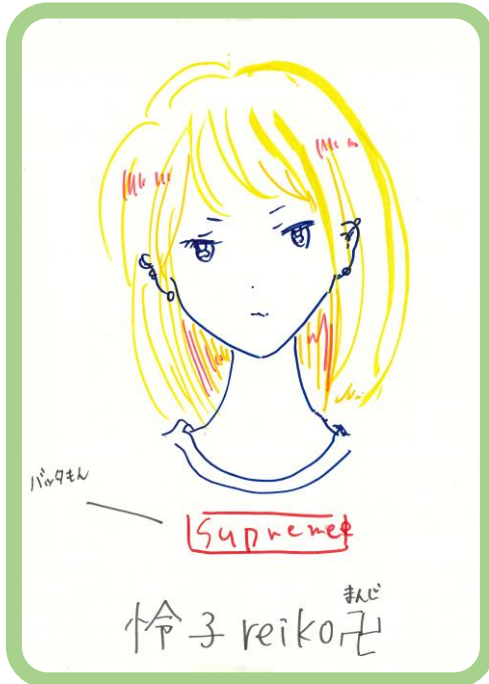
女性 文系大学生  
ボーイッシュで同性にもてる  
本人は女子っぽくなりたいと思っている  
音楽が好き 兄の影響でバンドをする  
ライブハウスでバイトしている  
仙台に憧れがあり、山形からやってきた

山形出身の優希さんは、大学進学をきっかけに仙台に来たボーイッシュな女の子。兄の影響でバンド活動をしています。バイト先のライブハウスがコロナ禍で経営の危機に。このままでは、アーティスト達の演奏機会がなくなってしまうと思い、コロナ禍でもできるような野外ライブイベントを企画しました。

きっかけはライブハウスを盛り上げよう！という気持ちでしたが、活動を通して地域を盛り上げたいという気持ちが生まれ、地域の人たちを巻き込んだイベントをしたいと思うようになりました。地域の人を楽しめて参加もできるイベントにしようと、SNS やチラシを使って、工夫しながら、地域の人々に出演の呼びかけを行いました。



【グループ4】 怜子（れいこ） 34歳 二児の母 栗原市出身  
（設定のねらい） 子育て世代



〔参加者が設定した人物像〕

シングルマザー ヤンママ 金髪  
若いころに出産した 子供は中3と高1  
仕事は溶接 溶接ギャル 収入は多くない  
栗原に住んでいた時は実家に同居  
実家では再婚を進められイライラしていた  
仙台に憧れると同時に嫉妬していた  
Twitter に子育てアカウントを持っていて、愚痴をつぶやいている  
浜崎あゆみが好き 通勤時によく聞いている  
休日にも子供の部活の応援やお弁当作りのため、休みなく働いている

「アタシ怜子。シングルマザーで2児のママ。仕事は溶接をしていて、まあまあ充実してる。通勤中はあゆを聞いてテンション上げてる♪でも、地元は、町内会は男ばかりだし、実家でも『早く再婚しろ』ばっか言われて、だるいのね。居心地悪い。休日は子の送り迎えばかり、出かけるにしても近所のショッピングセンターしか行かないのね。愚痴言えるのもTwitterのママ垢だけ。まあ、仙台のママはさあ、おしゃれなランチとかしてるんでしょ？って最初は思った。（で、仙台に来た。）

最近、月一でね、シルバーアクセのスクールのワークショップに通い始めたの。アタシ手先器用だし、溶接ギャルだし(笑) サポセン？ってトコでやってるっていうから。

ある日、サポセンで、隣で仙台のママのトーク会？みたいなコトやってて、仙台のママも大変だったことが分かったわけ。ウチらと一緒にじゃん？って思って。じゃあ一緒に部活やっちゃわね？って思って、その場にいたママと意気投合。一期一会的な？

で、立ち上げたのが、「ギャル文化部」。同い年ぐらいの年代同士で愚痴とか言い合って、ハンドメイドとかして、楽しんでるサークルみたいな立ち上げたわけ。

最近、オリジナルグッズ作って、ウチらみたいな、もやもやしてるとか子育て大変なママに支援してる団体にノベルティ？とか提供できるようになったし、マルシェとかも、ギャル文化部って、出れるようになったわけ。あゆに知ってもらえる日も近いのかな！」



【グループ5】 マチダ  
(設定のねらい) 自由設定

マチダズズカ



〔参加者が設定した人物像〕

女性 20代 仙台市出身 1人暮らし  
大学卒業 社会人1年目 OL  
勤務地は仙台市中心部 公共交通機関で通勤  
仕事が忙しく、好きなことができない  
仕事より自分時間  
Instagramにかわいいものを載せている  
周りにはほぼ Instagram を使っている  
趣味はカフェ巡り  
休日は街中ショッピング  
性格は慎重・控えめ  
少ない友人と深く付き合うタイプ

マチダズズカさんは、新卒1年目の社会人。覚えなければならぬ仕事も多く、多忙な日々を過ごしています。学生時代にまちづくり系のサークルに入っていて、もともとまち活に興味がありましたが、忙しい生活の中、きっかけを掴めずにいました。

ある日、何か活動したいとインターネットで調べていると、まち活に関するワークショップを見つけ、興味を持ちました。ワークショップに参加することで、同じまち活に興味がある人と出会い、人脈が広がりました。最初は緊張してためらいがありましたが、だんだんと積極的に関わるようになりました。

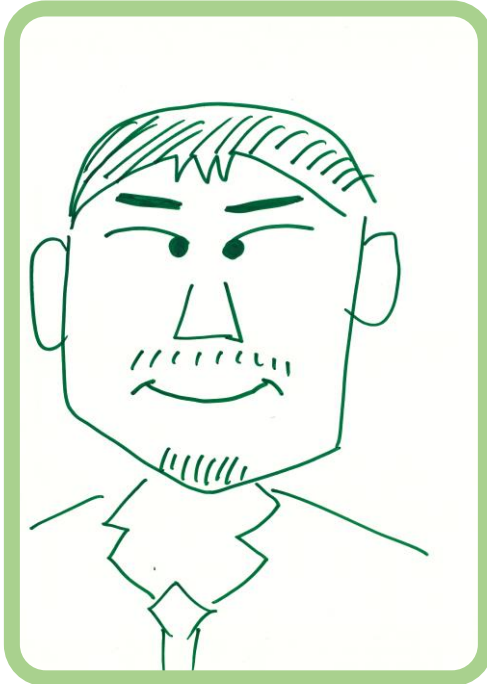
ワークショップをきっかけに、マチダさんはいろいろな活動をするようになりました。

一つは趣味の Instagram。おいしいお店などを発信していくうちに、反響があり、もっとアカウントを強化したい、地域の魅力を発信していこうという気持ちが強くなりました。

もう一つは、ワークショップなどで出会った周りの人に刺激を受け、地域の清掃活動やお祭、ボランティア運営などに参加していくうちに、今までやっていなかった慈善活動にも挑戦するようになりました。

活動を通して、同世代の友人が増え、やりがいが得られました。今までは生活圏に限られていましたが、地域づくりの活動から活動範囲も人脈も広がり、プライベートにも仕事にも豊かな影響が得られました。

〔グループ6〕 聡（さとし） 38歳 自営業・会社役員等 仙台市出身  
（設定のねらい）生活に余裕のある人



〔参加者が設定した人物像〕

大企業の課長 忙しく働いていたが、最近は  
休みが取れるようになった 家族思い  
毎朝コーヒーを飲む まじめで人に好かれや  
すい 人当たりが良い  
好きな言葉「威風堂々」「人を呪わば穴二つ」  
妻と娘2人（10歳と3歳）の4人暮らし  
共働き 生まれ育った仙台が好き  
子どもの頃、地域に見守られて育った  
Facebook で仕事の人脈を広げている  
Instagram は使えない  
長女は反抗期 「お父さん臭い」という  
娘との関係性をなんとかしたい

聡さんは38歳。大企業の課長です。これまでは仕事や接待ゴルフが忙しく、まちづくり活動に取り組む時間がありませんでしたが、役職が上がって時間に余裕ができ、自分が生まれ育った愛着のある仙台に貢献したいと思うようになりました。

地域の人とコミュニケーションを広げていけたらと思っていただけ、PTAの役員になるように頼まれました。まじめで、人から頼まれると断れない性格の聡さんは、PTAの役員を始めました。ちょうど、子供と一緒に何かできたらと思っていたので、良いチャンスだとも思いました。朝のあいさつ、道の清掃を、地域住民や子供たちを巻き込んで行いました。近所の人々もやさしく寛容で、子供たちを見守ってくれています。

PTA活動は精力的に行い、やりがいも感じて、楽しいと思っています。仕事で培った経験から、事務手続きや金銭管理も正確にできて、周囲から信頼を得ています。活動を通して、会社以外の地域の人にも名前を知られて、いろいろな人にあいさつされるようになり、よかったと思っています。

悩みは、二つ。一つはPTAのほかの人たちと熱量の差があること。なんとかして巻き込んでいけたらと奮闘中。もう一つは奥さんとすれ違いが発生していること。地域のことに関心が傾き過ぎて、奥さんとの時間を作れていないので、奥さんも巻き込んでいけたらと思っています。これからも聡さんの続きが気になるところです。

## ワークショップのまとめ

### 【物語の傾向分析】

各グループで創作した物語から、次のような傾向が見られた。

#### (1) 人物の背景

どのグループの物語でも、社会貢献をしたいという気持ちがベースとしてあった。地域への愛着によって、その気持ちが芽生えたり、より強くなったりするケースもあった。

まちづくり活動に対する興味・関心は、職場等自身が置かれた環境によって興味・関心が高まるケースや、自身が地域に見守られながら育ったために地域に恩返ししたいというケースもあった。

元々興味・関心を持っていたケースにおいても、描かれなかった何らかの事情により関心が高まったものと考えられる。



性格は、社会的であるか、活動を通して社会的になっており、まちづくり活動は人と関わって行うイメージがあるようである。

#### (2) 活動の動機

6つのグループすべてにおいて、人とのつながりを求めている気持ちがベースにあり、その気持ちは、活動を通してより強くなった。今回のワークショップの参加者アンケートにおいても、グループで話し合いながら作業したことが楽しかったとの回答が多く、人とつながること自体に楽しさを感じるようである。

何か新しいことを始めてみたいという動機もあり、活動を通して新しい活動に広げていきたいという気持ちが生まれる事例もあった。

#### (3) 活動をしてこなかった理由

まちづくり活動に関心があっても、きっかけがなく始めていなかったというケースや、子育てや仕事等の私生活が忙しく、余裕がないというケースもあった。人見知りやその他の理由で、既存の団体に入りづらい事例や、一歩踏み出す勇気がでないという事例があった。

(4) 始めたきっかけ

仕事等を通して課題認識を持ったことや、ボランティア活動やワークショップ等のイベントに参加したきっかけに始める場合が多かった。また、PTA等の地域団体の活動が入り口になる場合もあった。

個人で活動を始めるよりも、既存の団体に参加するか、仲間と何かを始めるといったケースの方が、敷居が低く参加しやすい。各グループの物語から、参加者が活動の入り口に手軽さ・気軽さを求めていることが読み取れた。

(5) 活動内容

「趣味のカメラでまちの魅力を発信する」、「子どもが通う学校でPTAの役員をする」等、趣味や能力を生かせる分野や、自分の生活等に関連がある分野で活動しようとする傾向がある。

また、複数のグループが、まちづくり活動にSNSを活用することをイメージしていたことから、SNSは若者にとって情報収集と情報発信の両面で重要なツールであると考えていることが分かった。複数のSNSがある中で、年上とつながりたい人はFacebook、より年齢層が若い人はInstagramというイメージを持っている。

(6) 活動をするることによる変化

活動を通して交流が広がることで、「コミュニティが広がった」、「アクティブな性格になった」、「行動範囲が広がった」等、多くの良い変化が描かれた。

やりがいを感じて、充実感を得られたり、まちづくり活動だけでなく仕事等のモチベーションもアップしたりするというケースもあった。



(7) 活動の継続

どのグループも物語の中で人とのつながりについて触れていた。

人から感謝されたり、評価されたりすることで、より活動に力が入ると考えたグループが多く、活動の継続に重要な要素であると考えられる。人とのつながりが増えることで、感謝したり評価したりしてくれる人も増え、一緒に楽しむ仲間がいることで、活動によって得られる楽しさは増加するようである。

SNSでもつながりは得られ、発信した情報に反響があると、満足感が得られるとともに、自分に自信が付き、今後の活動等にプラスに働くという物語もあった。

## 【まちづくり活動のプロセスマッピング】



## 関係団体ヒアリング

---

### 関係団体ヒアリングの概要

前述のアンケート調査を踏まえ、実際に多くの若者と共に活動している2つの団体に対して、若者が参加・活動しやすい環境づくりや工夫していること等について、ヒアリングを行った。

#### <ヒアリング団体①>

**団体名：** 外国人の子ども・サポートの会

**団体概要：** 外国にルーツを持ち、日本語での授業やコミュニケーションに困難を抱える子ども向けに、日本語と教科学習の習得をサポートすることを目的として、平成17年3月に設立。主にエル・ソーラ仙台の施設ボランティアとして、市民交流スペースで活動。未就学児から大学生まで、計37名の子どもとその親を支援している。サポーター会員（学生等）は約50名在籍しており、そのうち約3割は社会人で、約7割が県内の大学生（宮城教育大、宮城学院大、東北福祉大、東北大、東北学院大学等）ボランティアで構成されている。

#### <ヒアリング団体②>

**団体名：** 一般社団法人 ONE TOHOKU HUB

**団体概要：** 「“人”をつなぎ、“場”をデザインし、ワクワクできる仙台・東北をつくる。」をミッションに掲げて、令和4年4月に設立。若者が集まるコミュニティ「ONE TOHOKU」の運営、若者の人財育成等の事業を行っている。また、仙台市の事業「仙台まちづくり若者ラボ」の支援にも取り組んでいる。若手社会人を中心に、12名のメンバーで活動している。



## まちづくり活動への参加に期待すること

〔アンケート 質問6 に関して〕

あなたがまちづくり活動に参加する場合に、期待することは何ですか。

アンケートでは「身近な人の役に立てる」、「社会に貢献できる」、「人とのつながりを増やせる」、「困っている人や誰かの力になれる」、「楽しい時間を過ごせる」等が上位であったが、ヒアリングした2団体においても、上位項目の期待に応える工夫をしていることがうかがえた。

(外国人の子ども・サポートの会)

- ・ サポーター会員（学生等）からは、活動を楽しんでいることや、子どもたちをサポートしていく中で、逆に、子どもたちから「力をもらった」「教えられた」といった声がある。
- ・ 個人が抱える問題は最終的には自分で解決するしかないが、長い期間子どもたちと向き合うことで、子どもたちが困って大変な状況でも頑張って成長していく様子を目の当たりにすると、感心したり得るものがあるのだと思う。また、とても真剣に子どもたちと向き合っているからこそ、得られる喜びも大きいのではないか。
- ・ サポーター会員（学生等）同士が活動状況を共有しアドバイスし合えるなど、サポーター会員間の横のつながりは重要だと実感している。活動を通じてサポーター会員同士がつながることができ、同じ大学であれば大学にいる時に情報交換ができるなど、ここ以外での関係性もできると思う。

(一般社団法人 ONE TOHOKU HUB)

- ・ 「社会に貢献している」と実感することや、目に見える形に残る工夫が必要である。ただし、あまり「社会貢献」や「地域課題解決」を出し過ぎると、荷が重くなり過ぎて敬遠されることもあるので、バランスには注意が必要（特に社会人）。
- ・ 学生にとって、まちづくり活動を通して、普段あまり接しない社会人と関われる機会は、自分のキャリアを広げるための有効な手段となっている。また、社会人にとっても、学生から多くの刺激をもらい、お互いにWIN-WINになっているケースが多い。
- ・ 一人で参加した人には声掛けするなど手厚くフォローして、他の人としっかりつながりを持てるように工夫をしている。また、気の合いそうな人同士をつなげるなどのコーディネートは必要であると認識している。
- ・ 初めての人も参加しやすいように、「食」・「非日常」など、イベントの入口は「楽しい」・「ワクワク」できるコンテンツにするように意識している。

例)「芋煮×まちづくり」

## まちづくり活動に参加することへの不安、参加の妨げ

〔アンケート 質問 1 1 に関して〕

まちづくり活動に参加することへの不安や、参加の妨げになると思うことは何ですか。

アンケートでは「活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担」、「活動事例や団体などの情報がわからない」、「自分に何ができるかわからない」、「自分の他の予定が立てづらくなる」、「先に活動している人の輪に入れるか不安」等が上位であったが、ヒアリングした2団体においても、上位項目の不安等を払拭し、フォローするような工夫等を行っていることがうかがえた。

(外国人の子ども・サポートの会)

- ・ サポーター会員として参加を希望する方には、はじめに丁寧なヒアリングを実施し、その方ができることに合わせて事務局がしっかりとコーディネートをしている。
- ・ 自分で活動できる時間を決めてもらい、その時間は固定して、できるだけ長く活動してもらえるよう工夫している。
- ・ 塾のようなテクニックや成果を求めるのではなく、サポーター会員には弟や妹の宿題を見るような感覚で活動してもらっており、サポートする子どもが受験期の場合には、複数人のチームを編成して対応するなど、活動の負担感を軽減する工夫をしている。
- ・ チームメンバーには、同じ大学の学生を入れて、団体での活動の外でもコミュニケーションがとりやすいように工夫している。
- ・ サポーター会員同士の情報共有の場を設けている。話すテーマを決めて、困っていることを共有し、課題や今後の活動で気を付けるポイントなどを明確にする機会としており、事務局も助言をしながら活動をサポートしている。

(一般社団法人 ONE TOHOKU HUB)

- ・ ライフイベント（結婚・育児）や仕事の業務量によって、参加可能な時間・頻度は限定されてくるので、柔軟な対応が必要であると考えている。
- ・ いつでも自由に参加できるオープンな形は重要なので、意識している。一方で、まちづくり活動を実行していくためには、コアできちんとまちづくりに関われる人材を配置することも重要である。
- ・ 参加のハードルを下げるという意味では、活動頻度を月1回程度も許容していく必要がある。
- ・ 次回の参加に向けた事前準備や宿題などは意外と負担になるので注意が必要。



## まちづくり活動に参加する若者が増えるために重要なこと

〔アンケート 質問12に関して〕

まちづくり活動に参加する若者が増えるには、何が重要だと思いますか。

アンケートで回答割合の高い項目として、「事前申込なしで短時間でも体験できる機会」、「個人で参加できる機会」等が上位にきているが、ヒアリングした2団体においては、下記のとおり、これらの項目に該当するような活動を行っていたり、配慮したりしていることがうかがえた。

(外国人の子ども・サポートの会)

- ・ どなたでも気軽に参加できるよう、公開で、定例の勉強会やリライト教材を作る会、研修会を実施している。
- ・ アルバイトやサークルで当会のサポーター会員から活動の話を聞いて、「自分も参加したくなった」という新しい方が活動に来てくれることがある。まだ実現していないのだが、実際に活動しているサポーター会員に活動の広報を担当してもらえば、きっと同じ世代の人にはわかりやすく伝わると思う。

(一般社団法人 ONE TOHOKU HUB)

- ・ 2時間程度のイベントを事前申込なしで開催できると、参加者側も気軽に参加しやすいと思う。
- ・ 高校生の探究型学習とうまく絡めて、高校生の時から「まちづくり」に触れる機会を創出することが大切だと感じる。
- ・ まちづくり系に関連する学部のある大学や、まちづくりに興味関心のある教授と組んで、学生を巻き込みながら活動していくことが重要だと思う。
- ・ 地道に若者一人ひとりとの関係性を構築していく事が重要であり、しっかりと関係性が構築できれば、様々なまちづくりイベントに参加してくれるようになる。

## 総括

本市では、若者の主体的なチャレンジを応援し、将来の仙台のまちづくりの担い手となる若者の社会参加を促進するために、様々な事業を実施している。

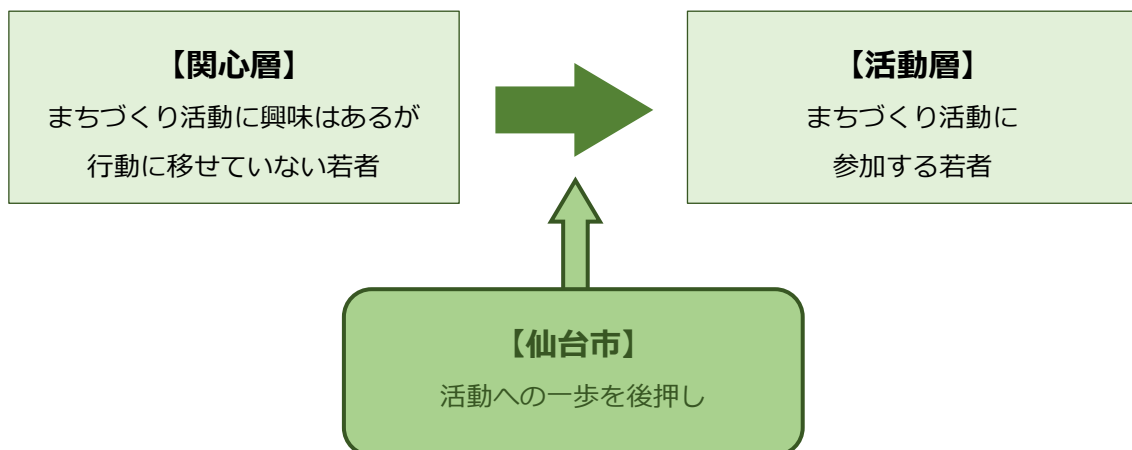
これまでの事業を通して、イベントや事業への参加の敷居が低いとはまだ言えないのではないかとことや、既存の活動者や若者団体同士の横のつながりの促進、活動継続の支援・更なる後押しの必要性が課題として見えてきた。

また、市民活動実践者や有識者等で構成される仙台市協働まちづくり推進委員会においても、まちづくりに接する「機会」や「関わり」を増やしていくことの重要性や、若者のまちづくり活動への意欲や興味関心を後押しする必要性について意見をいただいていた。



仙台市協働まちづくり推進委員会

そこで、今回の調査では、まちづくりに興味関心はあるものの、まだ活動にまで至っていない、活動経験がない若者をいかに活動へと後押ししていくか、そのポイントを探ることに特に重点を置いて実施することとした。



## (1) 楽しさ × つながり × 成長 × 貢献

今回の調査から、若者が活動に参加する場合に期待すること、言い換えれば参加する動機は、地域や社会等の役に立ちたい、「貢献」したいという想いととも、活動に参加する中で「楽しさ」や「人とつながれる」、「自分の成長」を求めていることがうかがえた。

ワークショップにおいても、すべてのグループで「楽しさ」、「人とつながり」、「

「自分の成長」が物語に盛り込まれていたが、アンケートでは特に、活動に参加中の若者（活動層）がこれらを強く実感している傾向が見られた。また、多くの若者と一緒に活動している団体へのヒアリングの中でも、これらを重視した工夫が見られたことから、「楽しさ」、「人とつながれる」、「自分の成長」は、「貢献」とともに、活動を始める動機としてだけでなく、活動を継続していくためにも重要だと考えられる。



## (2) わからない不安の払拭

活動に参加するうえで若者が感じる不安等を減らしていくことも重要である。アンケートでは、どの年代、どの職業においても、「活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担」が最も多い結果となっており、その不安感を減らすことは活動の入り口として特に重要であることが分かった。

特に、活動経験がない若者（関心層、潜在層（経験なし））は、活動経験がないためか、「自分に何ができるのかわからない」、「活動事例や団体などの情報がわからない」等の不安が大きい。「活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担」や「自分の他の予定が立てづらくなる」といった回答も、活動経験がないために活動にどのぐらい時間が必要なのかイメージができない、言わば「わからない」ためであると考えられる。参加へのハードルを下げるためには、若者にとって自分が活動に参加した姿が具体的に想像できることが重要であると言える。

加えて、活動に参加する若者が増えるために重要なこととして、活動経験はないが活動に興味関心がある若者（関心層）では、特に「事前申込なしで短時間で

も体験できる機会」や「個人で参加できる機会」の回答が多く、あまり気負わずに気軽に体験できることも、若者の後押しにつながると考えられる。

### (3) 情報の届け方

若者に情報を届ける際には「楽しさ、人とつながれる、自分の成長、貢献」という期待感・動機を喚起し、「わからない不安」を払拭するという、これらのポイントを押さえたうえでの工夫が必要となる。

若者は、情報収集及び情報発信のためにSNSを積極的に用いている。アンケートの自由記述や若者活躍事業参加者の声においても、市のSNSの活用を求めている。若者の「わからない不安」を「期待と安心」に変えてもらうためには、事業内容をイメージしやすい動画や画像等を交えながら広報を行う必要があり、その手段としてSNSは効果的・効率的なツールである。

また、実際に活動している人から生の声が聞ける機会、知人の誘いや学校・職場等からの勧め等のきっかけがあると、一步を踏み出すことにつながりやすい。ただし、学校・職場等に協力を依頼する際は、先方の負担を十分に考慮する必要がある。

若者が関心のある活動内容については、「地域活性化・まちおこし」が多いが、学生世代は「学術・文化・芸術・スポーツ」、子育て世代は「子ども・青少年育成」への関心が他の世代と比べて高く、自身に身近な分野に関心が高いという傾向が見られた。若者が使用するSNSも年代によって異なる傾向が見られたことから、ターゲットに応じて届ける情報や使用する広報ツール等を有効に使用していくことで、効果的なプロモーションにつながれると考えられる。



## 付録

### アンケート調査票

#### 若者のまちづくり活動に関する意識調査

該当する□に✓を入れてください。

〔質問1〕 あなたの年齢をお答えください。 **必須**

※令和4年8月1日時点における年齢をお答えください。

- 18～19歳
- 20～24歳
- 25～29歳
- 30～34歳
- 35～39歳

〔質問2〕 あなたのご職業をお答えください。 **必須**

※主なものを1つ選んでください。

- 学生
- 勤め人（常勤）
- 勤め人（パート・アルバイトなど）
- 会社・団体などの役員
- 自営業者（家族従業の方を含む）
- 家事専業
- 無職
- その他

その他を選択した場合はこちらに記載してください

〔質問3〕この調査を知ったきっかけを教えてください。

- 市役所からの郵便物
- チラシ
- インターネット・SNS
- その他

〔質問4〕まちづくり活動への参加に対して、興味・関心はありますか。 **必須**

※「まちづくり活動」とは、このアンケートでは、若い世代の皆さまが、社会や地域をよりよくするために、社会・地域が抱える課題の解決やまちの魅力向上・地域の幸福度向上などに取り組む活動を指します。

- 興味・関心がある
- 特に興味・関心はない

〔質問5〕

質問4で、まちづくり活動に「興味・関心がある」を選んだ方にお聞きします。どのような分野のまちづくり活動に興味・関心がありますか。

※複数選択可

- 保険・医療・福祉
- 社会教育
- 地域活性化・まちおこし
- 観光
- 学術・文化・芸術・スポーツ
- 自然・環境保全
- 災害救援
- 地域安全・防災
- 人権・平和
- 国際協力・交流
- 男女共同参画
- 子ども・青少年育成
- 情報化・科学技術
- 経済活性化
- 職業能力開発・雇用機会拡充
- 消費者保護
- その他

その他を選択した場合はこちらに記載してください

〔質問6〕

質問4で、まちづくり活動に「興味・関心がある」を選んだ方にお聞きします。  
あなたがまちづくり活動に参加する場合に、期待することは何ですか。

※複数選択

- 社会に貢献できる
- 身近な地域の役に立てる
- 困っている人や誰かの力になれる
- ソーシャルビジネスの勉強になる
- 自分の成長やキャリアアップにつながる
- 人とのつながりを増やせる
- やりたいことが見つかる
- 自分の知識やスキルが生かせる
- 特別な知識やスキルなしでも参加できる
- 余暇時間を有意義に使える
- 楽しい時間を過ごせる
- 自分の問題の解決につながる
- 進学、就職などで有利になる
- わからない
- その他

その他を選択した場合はこちらに記載してください

〔質問7〕「まちづくり活動」に参加した経験がありますか。 **必須**

- 経験がある（現在も参加中）
- 経験がある（過去に参加していた）
- ない

〔質問8〕

質問7で、まちづくり活動に参加した「経験がある」を選んだ方にお聞きします。まちづくり活動に参加した直接的なきっかけは、どのようなものでしたか。

※複数選択可

- 自発的な意思
- ワークショップやセミナーなどのイベント
- 人に勧められて、誘われて
- 学校や職場で参加する機会を与えられて
- 町内会などの地域の団体で参加する機会を与えられて
- その他

その他を選択した場合はこちらに記載してください

〔質問9〕

質問7で、まちづくり活動に参加した「経験がある」を選んだ方にお聞きします。まちづくり活動にはどのような立場で関わりましたか。

※複数選択可

- 個人で活動
- 団体やグループなどを立ち上げて活動
- 既存の団体やグループの一員として活動
- 学校のサークルやゼミなどで活動
- 職場のCSR活動として
- ワークショップなどのイベントの参加者として
- その他

その他を選択した場合はこちらに記載してください



〔質問10〕 あなたの周りでまちづくり活動を行っている人がいますか。 **必須**

- はい
- いいえ
- わからない

〔質問11〕 まちづくり活動に参加することへの不安や、参加の妨げになると思うことは何ですか。 **必須**

※複数選択可

- 活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担
- 自分の他の予定が立てづらくなる
- 自分に何ができるのかわからない
- 活動事例や団体などの情報がわからない
- 一緒に参加する仲間がない
- 先に活動している人の輪に入れるか不安
- 特別な知識やスキルがないと参加しづらい
- いつまで参加し続けられるかわからない
- 新型コロナウイルス感染症の影響
- わからない
- 特に不安や妨げになることはない
- その他

その他を選択した場合はこちらに記載してください

[質問 12] まちづくり活動に参加する若者が増えるには、何が重要だと思いますか。 **必須**

※複数選択可

- 事前申込なしで短時間でも体験できる機会
- 活動中の人や興味のある人たちが集う交流の機会
- 活動のアドバイスが受けられること
- 個人で参加できる機会
- 自分の知識やスキルが生かせること
- 活動が表彰される仕組み
- 交通費や会場使用料などの経費の支援
- 行政や地域などから課題や一緒に取り組みたいことなどが示される
- 打合せなどができるフリースペース
- わからない
- その他

その他を選択した場合はこちらに記載してください

〔質問13〕 仙台市役所の取り組みやイベントなどの情報を、どの方法で知ることが多いですか。 **必須**

※複数選択可

- 市政だより
- 仙台市ホームページ
- 仙台市メール配信サービス
- 仙台市公式 LINE アカウント
- Twitter
- Facebook
- Instagram
- You Tube
- 新聞・テレビ・ラジオ
- Webメディア
- チラシ・ポスター
- 学校や職場からの案内
- 人からの紹介・口コミ
- その他

その他を選択した場合はこちらに記載してください

〔質問14〕 その他、より多くの若者がまちづくりに参画するためのアイデアや、補足したいことなどがあればご記入ください。

# ワークショップスライド

1

**U39** 18歳から39歳対象  
まちづくり活動にこれから取り組んでみたい方

**まち活トーク**  
マチダさんのまち活デビュー

定員 **30名**  
参加無料  
QUOカード還元

**11/30 (水)**  
18:30~20:00

**青葉の風テラス**  
地下鉄東四線 最南センター駅 2階

2

**プログラム**

- (1) テーマ説明
- (2) グループワーク
- (3) まとめ
- (4) 発表

3

**テーマ**

**マチダさんのまち活デビュー**  
グループで1つの物語をつくる。  
主人公は名前や年齢、職業など、設定が異なる6人の中から1人を選ぶ。

4

**まちづくり活動とは？**

このイベントにおいては、若い世代の皆さまが、社会や地域をよりよくするために、**社会・地域が抱える課題の解決**や  
**まちの魅力向上・地域の幸福度向上**などに取り組む活動を指します。

5

**まちづくり活動の例**

伝統芸能の継承  
施設への慰問活動  
コミュニティカフェや交流イベントの運営・参加  
SNSで地域の魅力などを発信

6

**まちづくり活動の例**

他にも…  
リサイクルや消費者教育などの啓発活動、商店街活性化イベントの企画運営、地域の交通安全活動、スポーツ少年団での指導、高齢者向けICT支援ボランティア、アートを通じた社会課題発信や交流を創るイベントの企画運営、フードバンク活動、職場でのCSR活動、歴史資産や伝統文化を活かした賑わいづくり、震災の教訓を活かした防災・減災活動 等々あります。

7

**6人の主人公①**

**樹 (いつき)**  
24歳 常勤の勤め人  
石川県出身

8

**6人の主人公②**

**聡 (さとし)**  
38歳 自営業・会社役員等  
仙台市出身

9

**6人の主人公③**

**優希 (ゆうき)**  
19歳 学生  
山形県出身

10

**6人の主人公④**

**アイン**  
27歳  
ベトナム出身

11

**6人の主人公⑤**

**怜子 (れいこ)**  
34歳 二児の母  
栗原市出身

12

**6人の主人公⑥**

**マチダ**

13

**自己紹介**

**一人30秒**  
時計回り ベルが鳴ったら次の人  
名前・参加したきっかけなど

14

**役割決め**

リーダー 書記 発表  
タイムキーパー 盛り上げ係

15

**アイスブレイク**

**お絵かきタイム**

16

**アイスブレイク**

**グループで1枚選びます。**  
自分以外の気に入った絵を  
一斉に指差してください。

17

### トークのポイント

- 主人公の設定
- まちづくり活動をしていない理由
- まちづくり活動を始めたきっかけ・できごと
- どんな活動をしたか
- 活動中の様子
- 活動を始めた後の変化

18

### タイムテーブル

18:50~19:00	主人公の設定
19:00~19:15	物語づくり
19:15~19:25	まとめ・発表準備
19:25~19:55	発表（各グループ4分）
19:55~20:00	アンケート記入・解散

19

### トークのルール

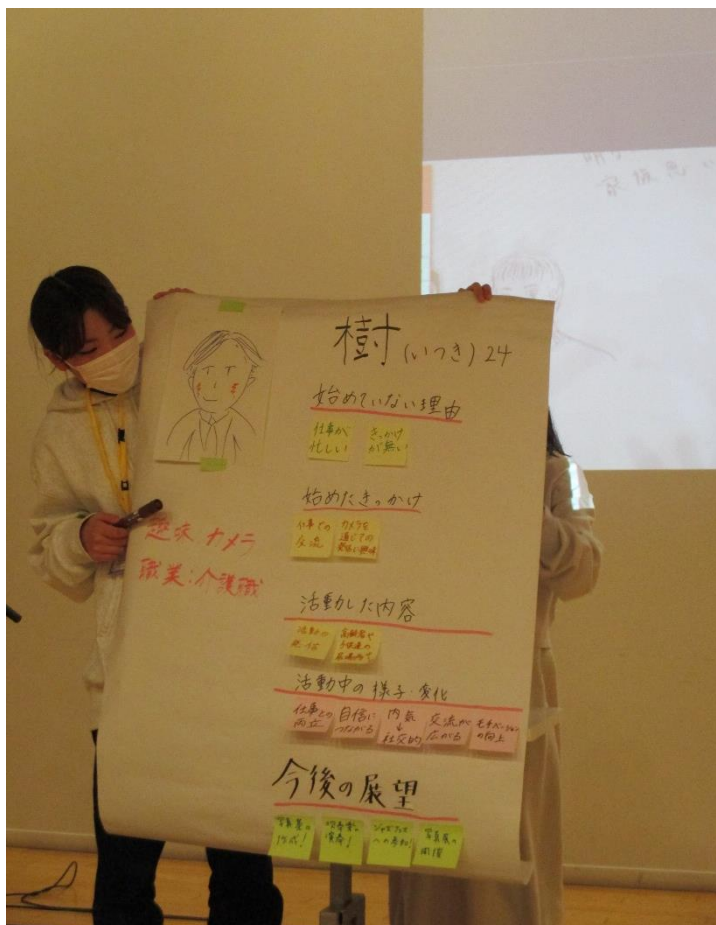
- ・他の人の意見を否定しない。
- ・他の人の意見をしっかり聞く。
- ・全員が楽しく発言できる空気を作る。
- ・年齢、立場、経験に関係なく、お互いを尊重する。

20

# トークスタート!



## ワークショップの様子



## ワークショップ参加者アンケート

〔質問1〕 今回のイベントは何で知りましたか。 (複数選択可)

選択肢	回答	割合
大学からの案内／先生に勧められて	14	56.0%
知人に誘われて／勧められて	6	24.0%
市政だより	2	8.0%
仙台市ホームページ	2	8.0%
Twitter	1	4.0%
仙台市公式LINE (VOOM)	0	0.0%
その他	2	8.0%

当課と関わりのある大学関係者に周知協力を依頼し、多くの大学生に参加いただくことができた。また、若者活躍事業の関係者にも声をかけ、そこからの広がりも見られた。

Twitterにおいても周知を行ったが、フォロワー数が少なく、有効な結果は得られなかった。今後、SNSの活用を推進する必要がある。



〔質問2〕 今回のイベントの感想を教えてください。

選択肢	回答	割合
満足	21	84.0%
やや満足	4	16.0%
どちらともいえない	0	0.0%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%

〔質問3〕 2で、そのように答えた理由について教えてください。

- 大学生の意見を直接聞きながら、まちづくりについてイメージをふくらませられた。
- グループの方と意見を交換しながら楽しく取り組むことができました。キャッチーなイラストや発想があって驚いたのと同時に、今後のワークショップや仕事で活かしていきたいと思いました。
- まちづくりで必要となるコミュニケーションの取り方を学び、時間内で作業する経験（初対面の方と）を積めたため。
- まちづくりのアイデアを逆算するように考えるのが新鮮でした！カジュアルな雰囲気もよかったです。
- 納得のいく発表ができた！
- 主人公がまちづくりに携わるストーリーを考えるという企画がとても面白かった。進行も楽しく話し合いが進められる構成でよかった。
- 同世代に限定した会だったので、良い意味で話しやすかったです。また、まちづくりに対して前向きな方々と意見共有できて刺激を受けました。
- 和やかな雰囲気でもちづくり活動事例を考えながら、楽しくグループワークができた。
- ワークショップの目的をはじめにもうすこし説明があると助かります。ストーリー自立のワークショップはなかなか面白かったです。
- 世代のちがう人と楽しく設定を考えながら、まちづくりについてより深く考えられた。
- もっと深いところまで考えたかったなと感じた。全体的に、時間がもっとあればいいなと思った。内容としては、こういう機会がないと考えることだったので、おもしろかったです。

- 物語を考えながらまちづくりについて考えるのが新鮮でした。
- 年齢やお仕事異なる方々と架空の人物を想像してまちづくりをする物語を考えるということが初めての経験だったことで、おもしろかったです。他の方の様々な意見やアイデアを聞くことができ非常に満足でした。ありがとうございました。
- まちづくりに関して考えるきっかけになり、他大学の方や企業の方と交流する機会にもなったから。
- 市民活動サポートセンターの方や市の職員の方とフリートークができる機会は今まで無かったので、刺激になり、まちづくりに関する興味が高まった。
- 普段、違った環境で生活している人との意見交換が大変刺激的であり、興味深かったから。
- 大変良い雰囲気、終始笑いの絶えないイベントでした。メンバーの方とうちとけることができるような、イベントの進め方で、みなさんフレンドリーだったこともあり、とても話しやすかったです。
- 登場人物の物語を考えるという設定がおもしろかった。
- 非常に楽しい内容で想像力が養われたから。
- 大まかな設定から細かい所まで取り組めたから。ただ、もう少し細かく取り組んでみたかった。
- 同じグループのメンバーが誰も否定することなく、お互いの意見を尊重しながらスムーズに話し合うことができたから。
- 自分と同じ大学生の設定だったため、どんなことをしているのか想像するうちに、自分自身にはどんな活動ができるのか考えるきっかけになったため。
- まちづくりに関して考える良いきっかけとなりました。
- 初めてまちづくりのイベントに参加したが、とても雰囲気が良く、楽しかったため。
- まち活をこれから始めていく人たちと思いを共有できた。

イベント参加者の満足度が高かった要因として、以下の点が考えられる。

- ・ **役所っぽさを排除し、カジュアルな雰囲気を作ることを心掛けたこと**
- ・ **物語を作るというテーマが参加者にとって新鮮であったこと**
- ・ **他者を否定せずに自由に意見を言い合える空気を作ることを心掛けたこと**

また、登場人物の設定を工夫すれば、さらに満足度を高められる。特に、完全自由設定のマチダさんのグループは難易度が高かったようである。

時間については、当初の見込みどおり短いという意見もあったが、注意事項を開始前にムービーとして流しておく等、トークに最大限時間を割けるように工夫したことで、濃密なイベントとなった。

〔質問4〕このイベントに参加して、「まち活」を始めてみようという思いは強くなりましたか。

選択肢	回答	割合
強くなった	16	64.0%
やや強くなった	6	24.0%
変わらない	0	0.0%
既に「まち活」している	3	12.0%

〔質問5〕ご意見がございましたら、自由に記述してください。

- 1時間半あつという間でした。
- ありがとうございます。
- もっとやった方がイイんじゃないスか！
- 楽しかったです！
- またあつたら参加したいです！
- また機会があつたら参加したいです。
- 今後もこういう交流イベントがあつたら参加したいので、いろいろ開催してもらえるとうれしいです。
- また機会がありましたら、参加したいです。
- 学外での活動が初めてだったが、楽しく参加できた。
- ありがとうございます！
- このようなイベントにまた参加したいと思いました。イベント開催していただき、本当にありがとうございました。
- ありがとうございます。
- まちづくりに取り組んでいる団体の情報を知りたい。これから始めたいとき、どんなことから始めれば良いか知りたい。

参加者の「まち活」への意識向上に効果が見られた。満足度も高く、もう一度参加したいという意見が5件あった。今後は、テーマを変えて実施したり、学校等への出前講座として実施したりすることも考えられる。

## 仙台市若者のまちづくり活動に関する意識調査 報告書

---

発行日 令和5年3月  
発行元 仙台市市民局市民活躍推進部市民協働推進課  
企画・集計・分析 仙台市市民局市民活躍推進部市民協働推進課  
住所 〒980-0802  
仙台市青葉区二日町1-23 アーバンネット勾当台ビル2階  
電話 022-214-1089  
FAX 022-211-5986



報告書は仙台市ホームページでもご覧いただけます。

<https://www.city.sendai.jp/kyodosuishin/kurashi/manabu/npo/shimin/oshirase/r4chosa.html>